明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正三年八月十五日發行
每月一回十五日發行

2－789

顧問伯爵大隈重信
會長島田三郎
同森村市左衛門
副會長安部磯雄

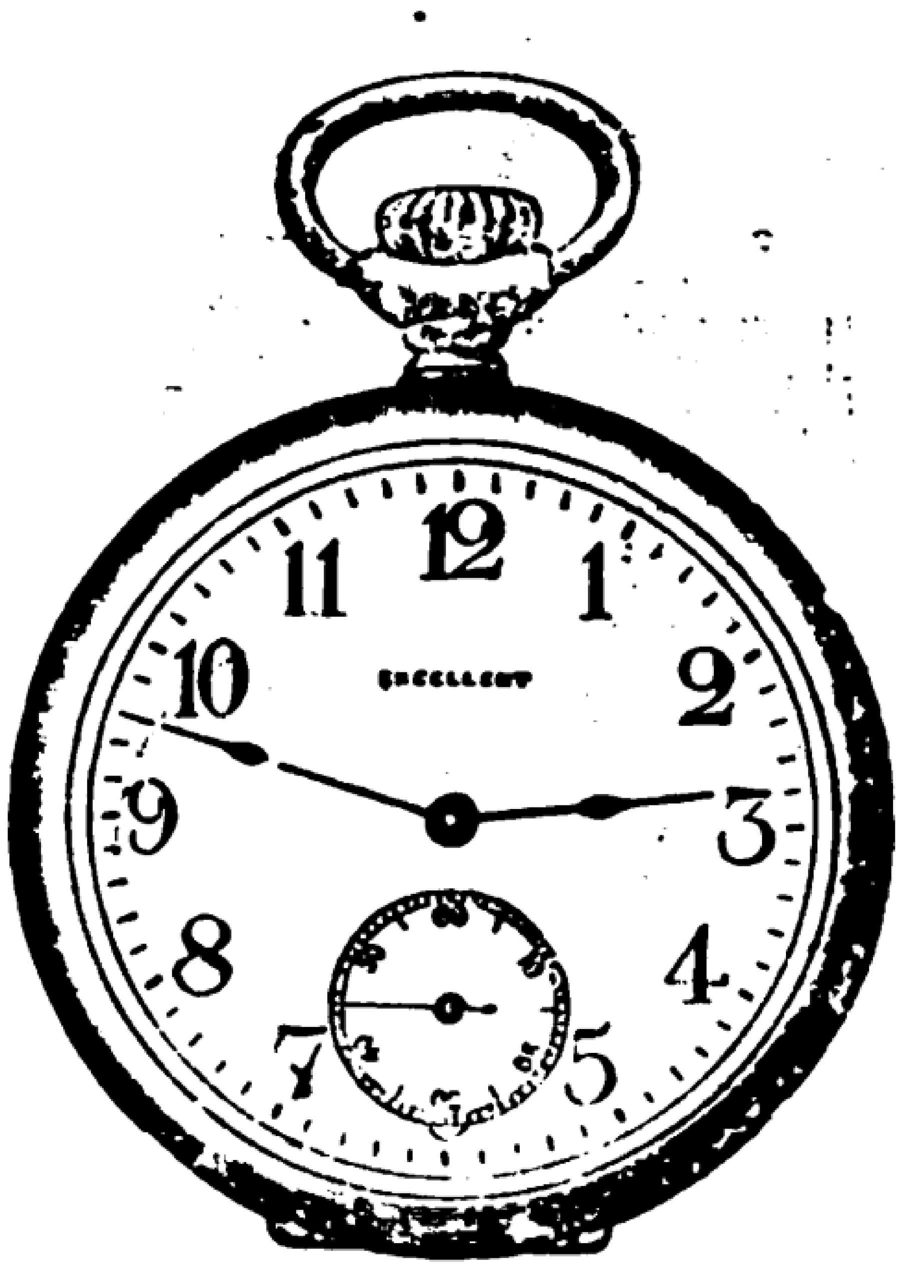
廓清

第四卷
第八號

東京
廓清會本部發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

精工舎は本邦唯一の懐中時計
掛置時計製造所にして



東京大正博覧會に於て

名譽大賞牌を受領す

創業以來貳拾有餘年現今一年の
製産額五拾五萬個に達す
其製品は全國著名の時計店に在り
就て御購求あらんことを冀ふ

東京市本所區柳島町

精工舎

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE PURITY 廓清

第四巻第八號（八月）

目次

□大正の新氣運……島田三郎
□内務省との會見……益富政助
□娼妓の百人研究……山室軍平
□家庭の新意義……安部磯雄
□結婚生活……鳩山春子
□根本に着眼すべし……福井壽郎
□暴戾な伏見警察の自廢……京都S生
□嚴正な藤枝警察の自廢……江尻Y生
□雜誌之雜誌
▽修養　▽社會　▽談叢
▽家庭……諸名家
□非公娼主義の群馬縣（英文）……ベットレー

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會說

大正の新氣運（二）

廓清會々長　島田三郎

七、救世軍と自由廢業

それから明治二十二年に起つた遊廓廢止運動について、其動機に面白き話がある、名古屋に英國人モルフィー氏といふ宣教師があつた。此人が英語學校を設立し、青年子弟を教育して居たが、其學生の中に一人學力品性とも將來望みを屬すべき人があつた。モルフィー氏も非常に之を愛して居たが、或時から其智力が著しく鈍つて、前日のブライトがなくなつて終つた。是は不思議であると思つて竊かに探索して見ると彼の青年は一朝遊廓に足を踏込み、爲に身心ともに之に耽溺し其智力能力とも鈍くなつたのであることを發見した。モルフィー氏は、少年は憐むべし、遊廓は惡むべしと云つて、同氏は此處に大に反抗の聲を揚げた。之に由つて一時遊廓廢止の運動が盛んになつたのである。其から救世軍が娼妓の自由廢業を奬勵する樣になつたのは確かに六七年前であつたと思ふ。爾來救世軍では必死に運動して居るが、警察官は却つて妓樓を保護するのが其職分であるかの如くに考へ、救世軍の運動に反對したのである。其も警察官が永い間遊廓の所在地に勤務して居れば、其地の人と面を見知り合ひ、懇意になる所から、自然妓樓の肩を持ち、自由廢業をなす者があれば、之が妨害を試みんとするは已むを得ないことであらう。況んや金錢は事を左右する事が出來る。遂に救世軍を目して無頼の徒となし、自由廢業を勸める者があれば、遊廓と惡漢等が群集して之を毆打し、人事不省に陥らしめるも、警官は之を不問に附して顧みず、適々救世軍に由りて廢業を願出づるも言を左右に托して容易に許可せず、萬一之を許可するとするも裏面に於ては百方之が妨害を爲すのである。然るに時代の變遷は恐しいもので、今日では稍救世軍の立場を認め、其仕事をして幾分容易ならしめたのであるが、尚官吏どもの思想は容易に改まらぬ。大審院判事をした中村元善と云ふ人が明治五年に横濱裁判所で判事であつた時、娼妓が自由廢業をなし、樓主との間に爭を起し、裁判に訴へて來たが、中村判事は斷然之を許し、自由廢業を正當となした。若も中村判事の様な人、又は埼玉縣で遊廓を全廢した白根太郎氏の樣な人が今日の警視總監になつたならば自由廢業などは何でもなく出來る。世が太平に慣れ、前例にのみ重きを置いて、事物に研究心がなくなつて來ると、國家は衰へ始める。本會は弛んだる綱紀の伸張に勤め、進んで害惡となるものを廓清せんと

するのが其目的で、決して遊廓問題にのみ限つた譯ではないが、始めは先其最も甚だしき者に向つて矢を向けたのであるから、近日世に喧すしき賄賂問題などは正に本會の大に力を盡すべき問題である。

八、賄賂問題と貞操問題

人を殺すことは惡い。他人の金錢を強奪することも惡い。是は被害者から訴へ出ることに由つて發覺することも早く、裁判に由つて其罪惡たることも分り、之を罰し之を正すことが出來る。が、男女間の風紀は合意で行はれ、高貴の人から下層の人まで之に陷り、且隱れたる所に行はれる。其殺人盜賊等は他に蔓延することは少いが、男女間の風紀頽廢は其害が次第に蔓延して、學者も、宗教家も、智者も賢者も之を防ぐ事が出來なくなる。男女間の風紀の頽廢は殺人強盜よりも或意味から云へば恐るべき罪惡である。近時世人を驚かしたる海軍收賄問題、宮內官の不正事件等は、世人が以て意外となす所であるが、之が又男女の貞操問題と頗る類似して居る、且つ密接の關係がある。男女貞操の墮落は上下の區別なく之に陷り、智者も能者も之に罹る。收賄問題も亦智者能者を問はずして之に陷る。且つ收賄問題の裏面には必ずや藝妓等の醜業婦に關係あるのである。由來海軍にも宮內省にも賄賂が行はれると云ふ事は世に喧傳せられて居たが、城狐社鼠之を燻べんとすれば城を壞り社を燒くの恐れがあるので、今日まで手を附ける人がなかつたが、一はリヒテル事件が動機となり、他は本願寺の事件が動機となつて、端なくも暴露するに至つた。斯かる不正は單に高等官の間にのみ行はれるのでなく、下は區役所の役人にも、警察官などの間にも行はれる。然し時の來る迄は知つて居ても之を言ふことは出來ない。男女の間の風紀墮落も上下共に之に陷り、假令之を知つて居ても口に出して云ふ事が出來ない。『閨閤の事は言ふ可からず』と詩の句にも言つてある。此點は賄賂と貞操問題とが似て居る。又智者も能者も之に罹ると云ふ點に付ては、藤井海軍少將、未だ罪が確定せぬから私は官名を稱する、海軍少將藤井光五郎氏は、海軍の機械に就ては秀でゝ居る人である。此人が中々惡い金を取つて居る。或人の如くに隱れて居る人の爲に金を取つてやつたのではない、自ら取つて居る。モ一人は低い處から出世をした人で、今は中將まで上つた。そして偉い人の娘さんを貰つて夫人として居る。能力學力から云はゞ實に偉い人であるが、此人も人の知るを厭ふ事を多年行つて居る。是等は智力や能力は人を善良ならしめぬと云ふ實例となるが、其のみならず賄賂に賣淫に關係して居る。彼の賄賂收受者の一人は、其取つた金を藝妓に關係した、汚れたる所に使つたと自白して居る。此等罪惡の本人は元より責めざる可からず、然れ共之を放任して置く社會は悲まざる可からずである。本日報知新聞で見たが、英國のチエンバーレン氏が死去したと云ふ事である。氏は英國一流の政治家で今は隱居して居るが、壯年の中から人に卓れた人で、其子息も前の內閣員に列し、統一黨中での有名な人である。氏と同

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

輩と云はんよりも、寧ろ先輩であつたチャールスヂルクと云ふ人があつた。此人は議會に出ても、文學上の知識もチエンバーレン氏と相並んで稱せられて居たが、今日では此人は政治界から葬られて終ひ其名を知る人さへもない。其は何故であるかと云ふに不品行が源をなして居るのである。如何に其人が能力があらうとも此點に於て缺ける所があれば英國の社會は之を葬つて終ふ。能力ある一人のヂルクを葬るは惜い樣であるが、其に優る品行の人が出るならば其でよいと云ふのが英國の社會である。然るに日本の社會は如何であるか、裁判の判決によつて罪人と定められても、刑期を過ぐれば大手を振つて社會に濶歩せしめて居る。我國の社會制裁と云ふものは甚だ薄弱である。廓清會は此點にも大に努力せねばならぬ。然し日本帝國は絕望ではない。一たび斯かる事が起ると、直に之に反抗する。此點は眞に望みがある。朝鮮や支那の人民は唯肉體の快樂のみを貪つて、惡を見て之に反抗する力がなく、唯飮めや歌へと肉慾ばかりに耽つて居るから、彼等の國民は到底復活することは出來ないが、日本は之に反し惡に反抗することが激烈であるから、頓ては社會の制裁も今一層強烈となつて、罪惡を撲滅する樣になるであらう。

九、大正の新氣運

偖明治の時代は是を回顧するに、彼の五ケ條の御誓文に示されたるが如く『廣く智識を世界に求め』た時代であつたと思ふ。明治の明の字は、智識を明かにするの意で智を代表して居ると思ふ。然るに大正に入つてからは不思議にも社會の諸種の罪惡を正しくすることを求める樣になつた。智力が優れて居ても品行に缺ける所があつてはならぬ。人々が眞面目に働き、正しき同情の感念に富んで、社會の隅々まで正義が行はれる樣にすると云ふ事は、大正の二字が表章して居ると思ふ。大正の年號は此の意味で選ばれたか如何かは知らぬが私はさう思ふのである。安部君は、大隈伯が内閣總理大臣となられてから、伯は非常に忙がしい事であると思つて成るたけ會はぬ樣にして居られるが、昨日學校の事に付て相談會があり、其席上に伯に遇つたを幸ひに、新しい要求は別として、先今日の制度を文字通りに勵行すること、自由廢業に就て警察官は之を不自由にならしめて居るから、此點も法規通りに行ふこと、内務の長官として、藝妓屋が藝妓となさん目的を以て他人の子を己が養女とすることを禁止すること、海外醜業婦取締に關する事等を提出して、伯の承諾を求められた所が、何れも其主張を容れ、何れ其内當局者と相會して之が勵行を期することになつたと安部君は報告せられた。自由廢業に就いて若之が法規通りに行はれるとせば、救世軍が運動しつゝある事に由つて、遊廓なる者は根底から覆すことが出來る。又養女問題に就て、今の法律は親の權利に付て絕對の力を與へて居ることは西洋よりも重いので、假ひ養女でも親と云ふ名がつけば、金で買つた娘でも、一萬圓で無ければ賣らないと云つて居る樣な事がある。慈悲の爲に養女とした者に非ずして、金の爲に養子を貰ふと云ふ事は不道理の事で

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ある。又海外醜業婦の事に就ては、矢島先生が年々議會に請願をして居るが、議員の委員會では毎に一笑に付せられ、反省を望む事は出來ない。偶々外務省の官吏を呼出して聽いて見ると、證據があれば禁止致しますが、何分にも證據がないから致方がないと云ふ。尙其外に質問しようとすれば、議員は質問無用と云ふ。本年なども現に私が見る所で質問は止められたのであるが、之を嚴重に取締つて貰ふ樣に大臣に願つたのである。海外の醜業婦は迚も止めきれないと云ふかも知れぬが、決してさうでないと思ふ。掏兒と云ふ者は是まで東京は云ふに及ばず各地にあつて、其害に逢ふものが非常に多く、之は到底根絶することは出來ないとして置かれた。是は德川氏の代から掏兒は警察の探偵と仲がよい。探偵の方では此の掏兒を利用して何か大なる物を取られた時、之に賴んで其物を取返して貰ふと云ふ事になつて居た。時計を掏られた位は其儘して置いて、大なる物がなくなると掏兒の親方から其を出して貰ふと云ふ事であつたが、熊本縣の人で赤坂の警察署長をして居た人が熱心に掏兒の撲滅を謀り、管内の掏兒の親分を檢擧し、ドシ／＼告發したので、他の管内でも之に倣ひ、親分なる者が五年十年の刑に處せられ、今日では掏兒の親分なる者は東京に跡を斷つて、掏兒の害が殆んど無くなつた。若も之を斷行しなかつたならば、本年の大正博覽會などにはどれ程の被害があるか分らなかつたのであらう。斯くの如くであるから何事も斷行すれば出來る。安部君が伯に求められたのは此點である。然るに伯は『大に宜しい……』と云はれたのである。不品行は其人の爲であるから致方がないと云ふかも知れぬが、不品行に陷るべき場所を公許して置き、其の不品行に陷るな抔と云ふことは無理なる注文である若し斷然之を禁止したならば、不品行をなさしめぬ事も決して難くはない。少くも文字通りに勵行したならば、其害を除くに於て大なる利益があることであらうと思ふ。山室君は何でも人も及ばぬ所を調べて居り、安部君は理義の上に於て調査をして居るので、何卒警視總監にも列席して貰ひ互に意見の交換をして見たいと云ふので、近日之も行はれる筈になつて居ると安部君からの報告である。何卒諸君も此廓淸運動に贊加せられ、人道の爲國家の爲に盡されん事を望むのである。

　吉植庄一郎君が此間議會で、大隈伯の著書から種々なる文句を引用して伯に質問に及んだ時、大隈總理大臣は『吉植君はお若いのに、私の本をよく讀んで下すつて、感心な事です云々』と冒頭に置いて縷々答へられた。斯んな風に伯から見れば大抵の議員は小供同樣に取扱はれて居るが、此の老年の大隈伯でさへ『姉』と呼ばざるを得ない矢島楫子女史は本年八十二歲の高年で、敵も味方も同情し尊敬する此人が、健康を犧牲にして、此の炎熱を凌ぎ明後日は前橋の婦人矯風會に出張して婦人の矯風問題の爲に盡瘁すると云ふのである。況んや靑年諸君は此の廓淸運動に參加し、人道の爲に盡瘁し、國家の進運に貢獻することは諸君各自の利益のみではなく、實に大正の新氣運に對する諸君の義務であると信ずる。（廓淸會三週年紀念大會にて）

當局者との會見に就て

理事 益富政助

我々の此の廓清運動に就て、當局者と意見の交換をして見たいといふ事は、永い以前からの懸案となつて居つた。然るに神の攝理といふべきか、海軍問題なるもの突發し、本會々長の島田代議士によつて其第一發を放たれた廓清の聲により遂に山本内閣は倒壞して、本會顧問としてこれ迄一方ならぬ同情と援助とを與へられたる、敬愛なる大隈伯爵が宰相の印綬を帶びられたのみか、此廓清運動と密接の關係ある所の内務大臣を兼攝せらるゝ事になつたといふ事は、會員諸君の至誠が天に通じたものと云つてもよからうと思ふ。而も此の内閣は前々號に於て安部副會長も申されたやうに『非新橋内閣』と云はるゝ程私行に於て比較的非難の聲を聞かぬ人達が各方面の椅子を占められたのも亦、我々の運動を聲援する無言の雄辯である。斯くの如く現内閣の時代こそ我黨の運動が一進展を致す可き與へられたる絶好の機會たるを信ずる。鐵は今や白熱となれり、天の一方に聲ありて『今は打つ可きの時なり』といふやうに吾等の耳朶に響くではないか。

於玆本會交渉委員島田三郎、安部磯雄、小崎弘道、内ケ崎作三郎、及余とは七月二十二日午後一時内務大臣室にて、大隈伯爵始め下岡内務次官、安河内警保局長、其他衛生局長代理等の當局者諸君と、會見し、三時半迄二時間半に渉つて懇談を遂げた。先づ本會設立の歴史、主張の要點より說き起し、娼妓の奴隷狀態の改善、自由廢業に關する問題、及び養女の問題、海外醜業婦の問題等に就き、平素の抱懷を述べた。

大隈伯は吾人と全く同一の立場より種々聲援を與へられ、極めて有益なる會見を遂ぐるを得たのは、感謝に堪へない。

當時各新聞紙は此事實を報道して『極めて穩健なる主張であつたから當局者も喜んで其意見を聽取した』といふ風に傳へたけれども、電報通信によつて傳へられた全國の各新聞は『公娼廢止運動は駄目』などゝ題し、當日の會見を何等の効力なかりしものゝ如く誤報したるため、仙臺の河北新報の如き『政府未だ覺醒せず』と題して堂々百行餘に涉りて侃諤の論を社說欄に公にしたるものもさへあつたが實は吾人との會見は極めて良好に行はれ、第二次第三次と回を重ぬるに從つて具體的成果を擧げ得べき充分の希望を認めたる程にて、玆に吾人は會見の内容を發表するを欲せざれども要するに電通によりて傳へられたる記事は、餘程相違ある事丈は言明するを得、何れ會員諸君の充分滿足せらるべき結果が漸を逐うて產れ出づべく、有益なる會見を遂げ得た事を告げて置く。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

研究

娼妓の百人研究（一）

廓清會評議員　山室軍平

一　貸座敷及び娼妓の現況

私は昨年本誌九月號に於て廢業娼妓二十五人に對する研究を發表して一通り彼等の如何なるものなるかを調べた積りである。併し乍ら今は一層それ等の事情を明確にする爲め、こゝに近頃救世軍にて取扱ふたる一百人の廢業娼妓に關する取調の結果をお話申上げたいと思ふ。

其前に參考の爲め、目下我が日本に於ける娼妓、及び貸座敷の狀況を、數字にて示せば左の如し。

	娼妓			貸座敷		
	明治四十三年	大正元年	比較增減	明治四十三年	大正元年	比較增減
北海道	二、三七二	二、二〇九	(−)一六三	三六三	三五三	(−)一〇
東京	六、八四四	六、四二一	(−)四二三	五六四	四八四	(−)八〇
京都	三、四六一	三、五四一	八〇	一、八二三	二、〇一四	一九一
大阪	六、三八〇	六、〇三九	(−)三四一	一、七八三	一、五九三	(−)一九〇
神奈川	二、六八四	二、五六五	(−)一一九	一〇六	一一七	一一
兵庫	一、七四一	一、九九四	二五三	三三六	三三一	(−)五
長崎	二、一八六	二、二〇二	一六	二四三	二七七	三四
新潟	一、五〇九	一、六四九	一四〇	四〇九	四三九	三〇
埼玉	一三二	一二九	(−)三	三三	三二	(−)一
群馬	—	—	—	—	—	—
千葉	三七四	三九二	一八	五七	五三	(−)四
茨城	三六四	三三九	(−)二五	四四	四四	—
栃木	六八一	七四四	六三	九六	九八	二
奈良	三六五	五一三	一四八	五〇	五八	八
三重	一、六三二	一、八二三	一九一	八〇	七九	(−)一
愛知	二、一三七	二、三二八	一九一	一六四	一四三	(−)二一
靜岡	六一二	六六三	五一	一三六	一二五	(−)一一
山梨	一八七	二〇九	二二	二六	二四	(−)二
滋賀	三一九	三九〇	七一	三一	二八	(−)[illegible]
岐阜	六八七	七五三	六六	八四	九七	一三
長野	九九九	一、〇〇一	二	一五三	一四九	(−)四
宮城	四三二	四八〇	四八	六〇	六〇	—
福島	六四九	六三一	(−)一八	一一九	一一九	—
岩手	三五一	三九二	四一	八六	九六	一〇
青森	六二三	五四九	(−)七四	一七七	一六七	(−)一〇
山形	八〇九	九一三	一〇四	一七一	一七六	五
秋田	四三四	三九七	(−)三七	八四	七八	(−)六
福井	四五四	五九七	一四三	三〇八	三一三	五
石川	四二七	四六八	四一	四五四	四七四	二〇
富山	四五三	五二一	六八	二八七	二七三	(−)一四
鳥取	一三〇	一四三	一三	四八	六六	一八
島根	七〇	四四	(−)二六	三八	三三	(−)五
岡山	五一四	五九七	八三	一六九	一七四	五
廣島	一、六四七	一、九一〇	二六三	二三九	二五八	一九
山口	八〇三	一、〇九二	二八九	一七二	二〇六	三四

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

和歌山	一七[illegible]	一八九	(一)一八	一七	二〇	三
德島	一三[illegible]	一六[illegible]	三九	七九	七[illegible]	(一)五
香川	四五[illegible]	四八[illegible]	三八	一二九	一[illegible]九	一〇
愛媛	一八四	一六四	(一)二〇	四一	四八	七
高知	三〇四	四一一	一〇七	四五	三八	三
福岡	一、一七三	一、四〇七	二三四	一四五	一四[illegible]	一
大分	二五[illegible]	二七〇	一七	五八	七四	一六
佐賀	三三二	三四四	一二	六八	八〇	一二
熊本	一、三三六	一、三三八	二	九六	一〇二	六
宮崎	一一〇	一九〇	八〇	二〇	二七	七
鹿兒島	三一七	三四三	二六	二一	二三	二
沖繩	八六三	九八七	一二四	四七〇	四六七	(一)三
合計	四七、五四一	五〇、四一〇	二、八六九	一〇、八三一	一〇、八九五	六四

二 遊廓の衰運

即ち大正元年末、日本全國に於ける娼妓の數は、五萬〇四百十八人にて、之を三年前の明治四十二年末に比すれば、二千八百六十九人の増加である。中には京都の八百八十、廣島の二百六十三、三重、山口、兵庫の各二百四五十宛を増加したる如き例あれど。一方には東京の四百二十三、大阪の二百四十一を減じたる如き事實があるのは、注意すべきことである。

貸座敷は大正元年末、日本全國に於て一萬〇八百九十五を算し、之を三年前に比して六十四の増加である。その中には京都の唯一府にて百九十を増したる如き極端なる事實と共に、大阪の百九十、東京の八十を減じたる如き愉快な數字を見出すのは、眞に喜ばしいことである。

大體から言へば、遊廓は近年何んとなく衰微の兆候を現はし始めた樣である。少くとも以前の樣に年々隆盛に赴いて居ない丈は間違なき事實である。これは又何故であるかと云ふに、上中流の道樂者の趣味が近頃漸く轉じて藝妓に移り、娼妓の方は專ら無敎育、沒趣味なる下層階級の需用に委ねる樣になつた爲だといふ人がある。或は然ういふこともあるであらう。それと同時に、一方では社會一般が言はず語らずの間に、何時しか公娼制度の不法非理なることを感じ、其餘りに露骨なる奴隷組織を厭忌するの情が、彼等をして遊廓に出入することを躊躇するに至らしめたことが、少く共他の大なる原因でなくてはならぬ。

三 一百人の廢業娼妓

私は今こゝに救世軍にて、近頃取扱ひたる自由廢業娼妓の内、殊に其百人に就て幾箇條かの取調をした結果を持つて居る。僅か百人だけの取調を以て、全國五萬有餘の娼妓の身の上を判斷するのは、聊さか早計に失する嫌がないでもない。併し乍ら動物學者は昔有つて今はない動物の遺骨の一片から想像して其全體の構造を考へ出すこともあると聞けば、私は今自分が握つて居るだけの材料に基き、一般に娼妓と名けらるゝ白奴の境遇、身の上等に就て、研究を試みたいと思ふのである。もとより物數奇や、慰み事の沙汰ではない。唯々彼等に關する赤裸々の事情を世の識者に提供して彼等の公明なる判斷を待んが爲に外ならない。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

四 洲崎に自由廢業が多い

私共が取調べたる一百人の廢業娼妓が、以前娼妓をして居つた遊廓は次の如し。

洲崎	三七	吉原	三六
新宿	五	横濱	五
大阪	六	京都	三
品川	二	北千住	二
板橋	二	三浦三崎	一
朝鮮	一		

大阪や京都は數が少ない故、一々遊廓の名を分たず、之を一緒に勘定したのである。又重に在東京の救世軍本營にて扱ふた事件であるゆゑ、それが自ら東京方面に偏つて居るのは一見して明白なる通りである。

洲崎遊廓の娼妓の數は概ね吉原の三分二しか居ないといふに、なぜ其割合に廢業者の數が多いかといふに、其最も重なる理由は、洲崎病院には東京市中の密賣淫を入院さするからである。

警視廳病院治療區域

警視廳病院名	娼妓治療區域	密賣淫者治區療域
吉原病院	新吉原、南千住、千住	
洲崎病院	洲崎	東京市、南葛飾郡、南足立郡
品川病院	品川	荏原郡
新宿病院	内藤新宿、板橋	北豊島郡、豊多摩郡
八王子病院	八王子	南多摩郡、西多摩郡
府中病院	府中、調布	北多摩郡

此表にも見える如く、吉原病院は娼妓だけで密賣淫の入院がない。併し乍ら洲崎病院には東京市中の密賣淫にて警察に擧げられた、監獄に入れられた場合に、病氣のあることが分ると送り込まれるのである。其割合は通常娼妓が二百人居れば、密賣淫が二十人入院して居るといふ位ださうである。斯くて洲崎の娼妓は其入院中折々密賣淫と顏を合せ、彼等から時々遊廓外の廣い社會の消息を聞く機會がある。茲に於て彼等の中には廢業して其籠の中の鳥の樣な生活をのがれ、廣い社會に出て見たい氣になるものが吉原よりも比較的に多い。現に先頃も腕力の逞ましい一人の密賣淫が洲崎病院に入院中まだ十九歳の華奢な一娼妓に力を假し、之に壹圓の金を與へた上、腕力の强いに任せて病院の格子戸を破り、之を逃亡させた樣な例もあつたと聞いて居る。

五 人間世界の消息を知らず

世には集娼、散娼の兩制度に就て、彼此れと議論を戰はす人々がある。併し乍ら少く共集娼制度、殊に今の日本の公娼制度如きに伴ふ一大弊害は、娼妓が全く外部との交渉を絶つた、隨つて何等の清い感化をも受けられぬ樣に幽閉せられて居ることである。彼等が毎日顏を合す所の者は、無智にして何辨へなき其朋輩仲間又は彼等に由て其慾を肥すことの外何事をも知らぬ樓主と其雇人との類である。其外部から入り込

んで來る男子に至つては、唯もう下劣なる肉慾をあさる輩に過ぎないのであるから、彼等は何時迄經つたからといふて、つひぞ一遍眞面目な人間社會の消息を聞くことが出來ない。彼等が一旦陷つて遊廓に入つたが最後、彼等は二度と再び外部の社會のことを知り得ぬやう、其交渉を絕れて居るのである。否應なしに此醜怪極まる肉慾の天地を、我が身の置所として諦めねばならぬ様に仕向けられて居るのである。今監獄に居る囚人の爲には敎誨の途をも講じ、彼等が改心さへするなら、一定の刑期を減じてさへも、之を放免しやうといふ世の中に、これは又醜業に身を墮した程の不幸なる婦人を强て一廓内に閉ぢ込め、態と眞面目な話や、又は外部の交渉を全く遮斷して、成るべく何時迄も、自覺の目を開かぬやう、人並みの生活を願ふ心を起さぬ様にと仕向け、出來る丈長い間落着て現在の生活を續けることを期待せられて居るのである如何に不都合千萬な話ではないか。偶ゝ洲崎遊廓の娼妓が病院にて密賣淫と落合ひ、碌な話も聞かないのではあるが、それでも幾らか外部世界の事情を聞いて唯其爲に他の遊廓よりも廢業者を出すことが多い事實を見るのは、眞に同情に堪へざることである。

六 娼妓の產地

次には百人の娼妓の原籍の事である。こゝに現はれて居るものが其大部分、關東、東北に偏つて居るのは、前條と同じく、重に東京で扱ふた事件に就ての取調だからである。

東京	二三	千葉	九	新潟	八
福島	八	山形	七	埼玉	七
宮城	五	三重	四	神奈川	四
茨城	四	群馬	四	栃木	三
岐阜	三	秋田	二	京都	二
靜岡	二	大阪	一	滋賀	一
奈良	一	愛知	一	長野	一

右の中東京の二十三といふのは、あながち生粹の江戸子といふ意味ではない。却つて田舍娘が一應在京の周旋人の許に養女として入籍し、然る後娼妓になつた如き者も少なくない近年愛知、三重の邊から出て來る娼妓の數が、追々減ずる傾きがある。遊廓側の者が言ふには「關西種は薄情である。義理人情を知らないから、折角金をかけても何時逃亡するか知れない」とのことである。思ふに十數年前宣敎師ユー、ジー、モルフ氏が名古屋に起つて、孤軍奮鬪廓淸の運動に熱心せられた結果は、其附近の人心に聊さかなりとも遊廓制度の不法非理なること、又娼妓が廢業しやうと決心する時には誰も之を妨げ得るものでない事等を諒解せしめ。其爲め此地方が娼妓の產出地たるには不適當になり始めたのではあるまいか。若し然うだとすれば、それに就けても廓淸運動は是非やるべきものである。假令其當座幾多の反對迫害があるにもせよ、つまりは大なる反響を呼起さずには止まぬからである。

七 凶作地と娼妓

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

十年前の東北凶作以來、其地方から上京して娼妓となる者の數が急に殖えたのは、悲むべき現象である。此事實は右の小さい表の中にも幾らか現はれては居れど、倘念の爲に目下東京にて娼妓をして居る東北六縣の婦人の數を取調べて見るに次の如し。

	明治三十五年	同四十年	大正元年
宮城	一七	一五二	二四七
福島	四七	三三四	三七六
巖手	三	一九	一七
青森	二	三	八
山形	五八	五一七	八七二
秋田	一	一三六	二六五
計	一六八	一、一六一	一、七八五

實に非常の事である。凶作は大なる災難に相違ない。併し乍ら凶作だからといふて、娘を賣物にさせる樣な設備を公許し、他に相當の方法を立てることを知らない國家は禍ではないか。現に今春も英國の或新聞紙が、今度の東北及び北海道に於ける凶作の事を論じ「北海道及び東北の飢饉は、一八六九年以來の大慘事にして、農民は飢に泣く妻子を持餘し、娘は之を賣女となす。此憎むべき公娼を國家として公認する國は、即ち我が大英國の同盟國なり。武士道を以て知らるゝ日本國なり」といふたのは、眞に私共の腸をえぐる樣な直言である、今更何んと辯解のし樣もない事柄ではないか。私共は又新潟縣がいつでも殊に多くの娼妓を產出して居る、不愉快なる數字に注意せねばならぬ。

八　農民は欺き易い

其次に、然らば如何なる家庭から最も多くの娼妓を出すかといふことを調べて見るに、次の如き答を得た。

農業	二四	無職業	一五	漁師	三
植木屋	三	人力車夫	三	菓子屋	三
前役場員	二	前巡査	二	古着屋	二
肴屋	二	しやも屋	二	小學教員	二
小使	二				

あとは銅屋、家根屋、相場師、染皮職、大工、洋服屋、佛具師、周旋業、日雇、木挽、保險會社員、理髮師、遊人、うどん屋、八百屋、瀬戸物屋、運送屋、天理教行者、鹽物屋、疊職、瀬戸物職工、瓦職、木版印刷屋、むしろ屋、番頭、石工、木箱製造、雜貨商、下駄製造業何れも一人宛、外に不詳六人、計一百人といふことになつて居る。

なせ百姓の娘が一番餘計に娼妓になるであらうか。一つの原因は、全國にて農民の數が他の何れの職業に從事する者よりも一番多いことであらう。それと同時に農村が荒れて、小さい地主か大きな地主に兼併せられ、小作人は亦割が惡くてやり切れなくなり、兎角浮足になり勝ちだといふ事實は、著るしくこゝにも影響して居るのではあるまいか。殊に前にも言ふ如く、凶作の結果、生計の途に困み、娘を人手に渡す樣なことも隨分盛んに行はれたらしい。現に福島縣の或村落の

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

如き先頃の凶作に際し、女子の大半は悉く娼妓、工女、密賣淫婦として出拂ふたとさへ傳へられた所がある。今一つの記憶すべき事は、農民は概して無智無學にして、人買が巡つて行つて欺すに骨が折れないことである。彼の狡猾なる人買が殊に東北地方の困窮なる農家など尋ねて廻り、甘言を以て其娘等を手に入れ、僅かの金を親權者に渡して白紙に盲判を捺させ、それを持て歸つて勝手な身賣の條件や、約束を書込む如き事實を知つて居る者には、亦彼等が何故好んで無智文盲なる農民の家を擇び、之を尋ねて廻るかといふ理由を解するに苦まないのである。

九　勞働を厭ふ輩

農家の娘に次で娼妓になる者の多いのは、無職業者の娘である。此生存競爭の劇しい世の中に、爲すこともなく、袖手で暮さうとする懶惰者くらゐ世に厄介なものはない。彼等は「何も爲すことなくして惡事をなす」者共である。自分で幾多の不正不義を行ふは未だしも、揚句の果には其娘を迄も貢物にせずには止まぬもの共である。昔はモロクといふ偶像に、其赤子を獻げて、之を禮拜する愚民があつたといふが、今の日本には我が年頃の娘を醜業に獻げ、之に因て得たる利益を以て己が口腹の慾を滿さうとする野蠻人が居り。而も國家が然ういふ蠻行に有らゆる便宜を計らふてやる事實がある。奇怪千萬のことではないか。

農民と、無職業者とを別にしては概して收入が少なく、智慮の乏しい、下級の勞働者、行商人の如き者の家庭から、多く娼妓になる樣な婦人を出すものと見える。間々小學教員だの、役場員、會社員などの娘に白奴を出す事實を見れど、此等は寧ろ例外と見做すべきものであらう。

一〇、四割の無教育者

百人の娼妓を調べて見て、今更の樣に驚かれるのは、彼等の無教育なることである。日本の公娼は人民の無智蒙昧なるに乘じ、彼等を利用して成り立ちたる制度である。聊さか物の道理のわかる婦人には、到底辛抱のし切れぬ樣な事を無理に要求する組織であるから。それが揃ひも揃ふて、無教育なる少女をばかり驅り集めて居るのに、一向不思議はないであらう。

全く學校教育を受けぬもの	四二
尋常一年(七歲にて廢學)	五
尋常二年(八歲にて廢學)	九
尋常三年(九歲にて廢學)	一七
尋常四年(十歲にて廢學)	一四
高等一年(十一歲にて廢學)	四
高等二年(十二歲にて廢學)	五
高等小學卒業	四

百人の中、四十二人といへば四割以上、卽ち殆んど半數に近いほど全くの無教育者であることがわかる。昔は娼妓にして詩文を解し、和歌をよみなどした者もあつたといへど、そ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れは昔話である。今時は全く事情が異つて居る。遊廓は今や無智愚鈍にして、辨へのない婦人達を驅り集め、之を彼の殺風景、沒人情なる肉慾の餓鬼の玩弄に任ずる組織になつて居るのである。淺ましいことゝ謂はねばならぬ。

小學校に入つた者の中では尋常三四年、即ち九歲、十歲といふ邊にて退學した者が最も多い。これは女の子が九歲、十歲になれば、そろ／＼子守が出來るとか、茶屋奉公にでも出せるとかいふ樣なことから、此時代に廢學者が一番多いものと見ねばならぬ。若夫れ舊制度の尋常小學を卒へ一寸でも高等に入學した者は僅かに十三人に過ぎないといふのは、如何にも憫然の事ではないか。

二　目つぶしをして嬲殺にする

一體今の公娼制度は無學文盲なる婦人を相手なればこそ、漸く成立つて居るのである。彼等を敎へて、之に一人前の婦人の心得べき程の道理をも辨へさせて御覧なされ。彼等は早速おさらばをきめて、飛び出してしまふに相違ない。愚か者を相手なればこそ、公娼制度は立つて行くのである。道德も人權も知らされない樣にしてあればこそ、遊廓はどうやら維持が出來て居るのである。此意味から言へば、公娼は人を愚にして置て、之を侮辱する所の制度である。かよわい婦人に目つぶしをして置て、之を嬲殺にすると謂つた樣な卑怯未練なる組織に外ならぬのである。

試みに娼妓名簿登錄に出かける婦人達を御覧なされ、彼等の中には自分の姓名をさへ認め得ぬ者が多い。警察署に出ても何んと挨拶すべきかを知らぬ故、前々から樓主や其雇人に敎へられた通りを暗誦し。それでも語に窮して附添の妓夫から辯じて貰ふやうな有樣。彼等の中には自分は何んの爲に、どういふ生活に入るのか、碌々理解もしないで、いつの間にか娼妓になる如きものさへ少なくない。彼等の中には又娼妓になつて後、其悲慘なる生活に懲り、身體には惡い病氣を得樓主から虐待を蒙りなどして、こんな事では到底やり切れないと其心中には忌み難き苦悶を蓄へながらそれさへ誰にむかふて、何んと訴ふべきかを知らず、唯泣く／＼毎日毎夜を過して居る樣な者も數多くある。救世軍發行の小冊子「娼妓自由廢業の勸め」は極めて平易なる文書にて之を讀んで正業に志したる娼妓も幾人かあれど、其多數に至つてはそんな平易なる文書と雖も之を讀むだけの力がなく、讀んでも理解するほどの力がない。それ故、今の樣な有樣では、到底廓內の娼妓に、外部から眞人間になるべき道など、紹介する門戶は殆んど全然杜絕せられて居るものと謂はねばならぬ。（つゞく）

山室氏の大著『社會廓淸論』出づ

日本のブースとして一世の景慕する處たる我が山室軍平氏が、心血を注がれたる大著『社會廓淸論』が近日中に警醒社から出版せらる。全篇を七章に分ち、第一章現存の奴隷制度、第二章娼妓の百人研究、第三章公娼廢す可し、第四章公娼廢止善後策、第五章藝妓論、第六章海外醜業婦、第七章基督敎と風俗論といふ風になつて居る、四六版四五百頁、價格は出來る丈安く一圓以內といふ事である。例によつて通俗平易で、而も犀利明快に論斷せらてある事は贅する迄もあるまい。會員諸君の一讀を是非推稱すると共に、大方に吹聽あらん事を切望する。希望者は京橋區尾張町の警醒社又は本會に申込まれたい。

論議

家庭の新意義

廓清會副會長　安部磯雄

一　家庭本位か個人本位か

家庭の問題は古い問題で、新しい意義などゝいふ事はなさゝうである、けれども實は今尚一の問題となつて居つて判然定まつて居らぬ。

家庭を以て社會組織の本位とするに就ては、私共は早くより疑を懷いてゐる、日本の法律は勿論家庭本位である、併し果して家庭が本位で個人が本位でないといふ事がいへるかどうか。家庭は個人の發達を助くる爲めに出來てゐるものではなからうか、個人が社會組織の本位となるべきものではなからうか、斯ういふ事は餘り論究せられて居らないが、自己修養の上からも、國家の發達の上からも捨て置く事の出來ない大切な問題ではあるまいか。

私の考では、我々の發達の上に家庭といふものは無論必要なものである、併し乍ら決して本位となるべきものではない。それでは國家はどうであるか、之れは尚本位となるべきものではない。詮ずる所個人が本位となるべきである。「我」といふものが存在して居ればどうしてもそれが一方の出發點即ち單位であらねばならぬ。而して次に家庭がありそれから都會に住めば東京市といふ樣な團體もあるし、田舎に住めば郡、縣、といふ團體もあらう。併しさういふものを入れる必要はないから、すぐに國家に飛ぶ。然らば國家の次は何か、次は即ち人類である。

茲で注意して置くべきは人類といふものは國家を離れても在る。併し乍ら我々は人類を離れる事は出來ぬ、自分一人存在するといふ事は考へ得ない、文明といふ事を考へると決して個人が人類を離れる事は出來ぬ。離れゝば自滅を免れないのである。けれども家庭と國家とは共に大切なものであるが私共の内から其麽ものは無いものとして假定してゞる事が出來る、家庭や國家の必要は空論であると假定する事が出來る。即ち思想上よりいふならば、理論の上から國家や家庭を非認して存在して居る人は澤山ある。家庭が個人の發達を邪魔になる時はこれを捨てるのである、子供を殘酷に取扱ふ親を見る時には、家庭がない方が其子の爲めに幸でないかと屢思ふ、窮民の子供など個人だつたら養育院にやるとか孤兒院に送るとか相當の保護を社會は與へる。男子や女子が一人前になつても、家庭を作らぬ方が幸であると考へる者はいくらもある。茲に於て家庭が神聖であるとか、家庭本位と

考へて居たのは根底から覆された。

二　國家も亦個人の幸福を基礎とす

家庭は個人を助け、個人を幸福にする爲には非常に大切であるが、前の樣な人々の爲には家庭は何等の値をなさぬ。而して左樣に信ずる者が西洋には續々殖へて來た、日本に於ても眞面目に發達せんとする青年男女は家庭に疑を起す筈である。家庭本位の夢に疑問を起す處迄來らざるを得ないのである。即ち家庭が個人の幸福を助けるならば、家庭を作るのは非常に幸福であつて、其然らざる時は苦痛となるのであるから「個人の發達を助ける」といふ條件が附せらるゝ時に限る事となつたのである。

併し乍ら國家となると大きい丈非常に複雜になつて、自分一個で必要があるの無いのと云ふ事は出來ぬ。國家といふものは必要の有無は理論だけで實際考へて居る人はない。併し歐羅巴には無政府主義者といふ者がある、之はたゞ狂暴の者の樣に解釋されて居るが、理窟には叶つて居る、國家が國家を組織してゐる多數の個人に害があるならば國家は要らぬといふのである。無法暴戻の者の樣に誤解されて居るが、寧ろ彼等は堯舜時代を夢みて居る者である、お互の自由を尊重して幸福に行かうといふのだから、理想は高尚である。併しそれが理想の高遠なるだけ現實に即する事を忘れ現代を憎惡してこれを破壞せんとする處に危險を伴ひ世の指彈を受くるのである。けれども國家は個人の幸福を基礎に立たねばならぬ然らざれば國家として成立して居ないともいふ事が出來る。

三　家庭組織の根底と平等思想

我々は家庭の値を輕んずる精神はない、併し乍ら意味が違つて來るのである。我は何故家庭を有するか、家庭本位だからといふならそれでよからう。けれども家庭といふものが個人の發達の爲めといふ事が分つて來たならば、其意味に於て家庭を經營して行かねばならぬ。妻が夫に不平があり、子が親に不滿があり、それで不良少年があるといふ樣な家庭ならば家庭はない方が個人各個の幸福である。

されば私共は自ら家庭を經營するに就て一家の者が悉く幸福を得ねばならぬといふ事に到著する。家庭は個人の幸福を基礎とするならば、其根本は平等の思想であらねばならぬこれを充分に發達せしめ、これを要求する權利を認めねばならぬ。決して兩親の爲めに、殊に夫の爲めに家庭が作られて居るものとは信ずる事は出來ぬ。其麼事なら妻は家庭を作る事を承知しない方がいゝ、家庭は個人の幸福のために組織するものであるから、各個が平等に主張する權利があるといふ思想の上から、始めて家庭に新しい意義が生ずる。日本の民法には絶大なる戸主の權利を認めて居る、此の法律は幼稚な思想と云はねばならぬ。尤も我々は常に法律以上に進んでゐる、法律は後から跟いて來る性質のものである。法治國といふと如何にも立派であるが、我々が法律に從ふのは感服して居るからではない、遅れたものは改正して行かなければならぬ

と思つて從つてゐる。戸主が他の者より餘計な權利を法律が命じても、それを家庭に於て我々が守らねばならぬ事はない、其點に於て家庭は實に面白い場所である。新説といふものは試驗せなければならぬ、化學者物理學者が實驗室を有つて實驗して眞理を確むるやうに、家庭は人々の思想の實驗所であると私は思ふ。自分の思想を社會に應用するには法律を作り變へねばならぬ、それには多數の人の同意を要する。併し家庭は人數が少い、社會に出ては悲觀するが家庭は自分の思想が自由に實現せらるゝ處であるから、思ひ切つて平等思想を實行する事が出來る、そして其思想の弊害ありや否やを實驗する事が出來る。

四　先づ言語より平等の實を示せ

平等思想の實行は一番先に言語の上に表はれて來る。言語の改正は家庭の同意を得てすぐにやれる、貴族的の言葉にしろ、平民的の言葉にしろ、さういふ處から平等になし易いのである。今日にあつても上流と下層とは比較的平等の言葉を使つて居る、極上流や宮樣方になると雙方からどう遊ばせと云つたやうな言葉で、親子も多少の差はあるが相近いのである、又極下層の勞働者に於ても夫婦親子がお互に『おい往つて來るよ』と云ふと『私も行つて來るよ』と云つた風に割合に平等である。それが中流社會となると全く懸隔が甚しく、殿樣と家來程の差がある。

それなら上等に平等であつた方がいゝか、下等に平等であつた方がいゝかといふと。やはり言葉は丁寧であつた方がいゝ、言葉が丁寧であると喧嘩も出來ぬ。『何云つて居やがんだい』といふから喧嘩になるが『何をお言ひ遊すのですか』では喧嘩にならない。平民的な卑しい言葉よりは、喧嘩の出來ぬ位上品な言葉がよい。私は又『兄さん』だの『姉さん』だのいふのが既に宜敷ないと思ふ。斯ういふ言葉を用ゆるから親密の意味以外にいつ迄も年上の方は『兄さん然』として居て、弟の方は小さくなつて居なければならぬ、這麼事は意味のない事である。誰しも名を持つて居るから『さん』の敬稱をつけて呼ぶ事にしたらいゝ、妻や子供にも、女中にもさんをつけなければならぬ。妻や子供に『さん』をつけて居る程の開けた人でも、女中には『さん』をつける事をしない。併し何も『さん』をつけたからとて威光を損する事はない、殊に小さい子供に大きな者を呼び捨てにせしむるが如きは、他日彼等を卑しめ階級的人物を作る原因である。

五　外交政略と子供の虐待

斯ういふ事は社會に向つてはすぐ實行する事は出來ぬ、併し家庭にありては皆の同意を得さへすればすぐに行ふ事が出來る。夫婦が妻に對する態度に就ては常に本誌に於て難じてゐるから、特に子供に就ていふが、子供を平生可愛がつてゐる者も何か事があると忽ち惡くなる。お客さんが來る、御飯を食べる時間になつてお腹がすいてもゝう少しお待ちと云はれる。自分も子供の時に覺えがあるが、私はお客が大嫌であ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

つた、これは私自身の經驗のみならず、何處の家庭にもありさうな事である。大切な子供が來客の爲めに虐待される。如斯は大きくして云へば一國が外交々々と云つて外交政略に骨を折り、內地の貧乏人を顧みないのと同一である。一家の家にしても客の座敷が一番いゝ部屋である、子供の遊ぶのには最もいゝ室であるのに、鎖港攘夷で、子供の遊び場たる事を許されぬ。これ等は多少情に於て察すべき點もあるが、要するに客の爲めに子供を犧牲にする譯であるから、家庭組織の根本から考へて見ても、僅か三十分かそこらの來客の爲め一番廣い好い間を明けて置くといふ事はない。日比谷の公園でよく外國人を招待する、其時には一般公衆を入場させないが、これは月に一度か年に何回位の事であるから誰も苦情をいふ者もないけれども、若し月に一回位の外客招待の爲め、平生市民の入場を許さぬといふならば、恐らく默過する譯には行くまい。又夫が、圍碁や謠などの友達が來て十二時迄も歸らずに隨分細君が弱つて居る人がある。これ等も全く妻君の權利、子供の權利を無視した非立憲の行動である。

六　立憲政治の眞髓は家庭の平等にあり

家庭には色々な大きな問題がある。婦人問題は二十世紀の大問題であつて、英國の參政權運動の如き隨分亂暴をやつて居るが、これ等も家庭に於て解決すればすぐ解決が出來るのである。勞働問題も亦二十世紀の一大問題である、併し乍ら家庭に於て主人が下女下男に對して平等の取扱をする事が出來れば、此問題も亦立ろに解決するのである。女中を別物扱ひにして、給料もいくら使つても上げないと云つた樣な其思想が子供に移り、他日社會の下女下男なる勞働者に向つて同樣の態度を取る事になる。日本の勞働者のストライキは賃金の爲丈では決してない、常に職工長とか取締とかに對する不平不滿から來る、併し外國ではいつも賃金の問題である。日本には職工長とか其他上役の權柄やら苛酷が問題であるといふ差を忘れてはならぬ。日本の下母下男は自覺がないから如何なる形に於て顯はれるか分らぬけれども、賃金の問題だけと思ふと大なる履違ひである、雇主の態度は深切といふ事が大切である、深切と云つても昔の樣な階級的では不可い家庭に於てはストライキがないと思ふと誤りである、女中のストライキは出て行くにある、女中が度々代る家は碌な內ではない、之は細君の大責任であつて恥べきストライキである之を要するに家庭が本位ではなく、個人の幸福を助長する目的を達せられぬと思ふ人は、家庭を持たぬ方が幸福で、社會にもいゝ働きが出來る。家庭を持つのは神の命でも國の命でもない事が分つたと思ふ。併し乍ら家庭は多くの場合に於て個人の發達幸福を助くる。のみならず、自己の思想の實驗場として趣味津々たるものがある。何も不平をいふ事はない思ひついたものを何でもやつて見るがいゝのである。

最後に私は今日の日本の立憲政治を心細く思ふ、それにはどうしても家庭に於て子供が平等の思想を享くる樣にせねばならぬ、之れ實に立憲政治の眞髓である事を特に言ひたい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

家庭

結婚生活

共立女子職業學校教授　鳩山春子

西洋の諺に『接近は輕蔑を招く』といふ事があります。遠くで見てゐては如何にも立派なものも近くなるに從つて輕蔑の意が起つて來易いものである、結婚生活に於ても此邊の覺悟を豫め考へねばなりませぬ、さういふ樣な事は豫防したら出來ぬ事はないのであります。人間は誰しも全く一個で生活して行くといふ事は不可能であります、必ず誰かと一緒に暮して居るに違ひない。して見ると人間といふものは自分以外の者と調和して行くべきものである事が明かだと思ひます。女同志共同生活をするにも調和を求めなくてはならぬ、女中の如き自分の言葉に全く服從する種類の者と同居しても、なほ自分に心服しない者と一緒に居るといふ事は不愉快でございます。女中は厭ならすぐ取更へられる、しかし結婚はこれと大に意味が違つてゐて是非とも成功しなければならぬ生活でございますから尚更調和の道を求め豫防の策を講ぜねばならぬといふ事になります。

□

男子が結婚をなさんとする時、其配偶として如何なる婦人を望むかといへば、優美は其憧憬の第一點でございます。まあ何といふ可愛らしい、美しい、天女のやうだらう、這麼人を奥さんにしたらどんなに幸福だらうといふて唯容貌の美のみに眩惑し家庭の人と致します。併し接近は輕蔑を招くのです、いや輕蔑を招く譯ではなからうが、虚飾が脫ぎ捨てられて赤裸々の眞價を暴露せられずには濟みませぬからいつか先の天女は凡婦と化し夫の内助をなすことはおろか、虚榮心ばかり發達し、人に褒められやう、立派に見えやうとのみ考へて夫の財産を浪費し一家を破滅に導くといふやうな事になります。斯ういふ人は夫に何と思はれても他所の人達に褒められゝばよいのです。其思想は若い時から奇麗々々と賞められてゐるから人より自惚が強い、且つ我儘で偏屈で、意志が薄弱で動搖し易い、他人と調和しない、内害的人物たる事を發見する事が往々にしてあるので御座います。

遠くから見るやうに完全な人といふものはあるものではございません。結婚生活に入らんとする者は先づ〳〵自らを省みればなりませぬ。何れ自分にも大變に缺點があるに違ひない、動もすると人は自分を責めて立派な者にならんと努めず、他人に期待する事は甚だ多い、彼處がごうの此處がごうのと、殊に結婚生活に於て多くを期待する。結婚の時は媒介口と云ふて人間以上の人のやうに云はないと承知しません、自分の事は棚において對手のみは完全無缺が欲しいのである。併し乍ら其結果が好いならばそれもよからう、が、斯くして盲目的の愛を注いで天女を得た喜悅は、やがて醒める時が必ず參るのであります。而も其人達は戀愛は神聖だと申すでしやう、けれどもそれも盲目の一ツで御座います、西洋でも火山の破裂したやうな戀は、火花のやうに一時

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は壯烈でも激しくても、永續がしないと申します。而も本人達はいや人のはさうでも自分の丈は違うと思ふてゐる、結婚に就ては我々は飽きる事はないと思ふてゐる。併し盲目的愛が永續しないのは今更説明を用ゆる迄もありますまい。

それなら醒めて、『何だやはりたゞの人間だつた』と感ずるのは何方が早いか、最大男からか、女からかと申しますに、最大多數は女の方から厭になつたといふ人より男の方が多うございます。口で云はなくとも行で示します。それには又男が他に出て誘惑に出會ふ機會の多いといふ點もありませう。併し要するに始めは天女のやうに見えて居たのが輕蔑する樣になり、尊敬の念が薄らいで來るのが百人中百人でございます。

口

結婚生活といふものを、組合のやうにすると妻の方が資格とか資本とかいふものが少い、夫が取つて妻が消費する位なものであります、それが外の人ならいけないのを妻が來てからよくなつたといふならよいが、妻が來てから整理や經費などに不滿が多くなつたといふのでは誠に困る。夫婦生活に於て成功しやうといふには餘り懸隔があつてはいけませぬ。男が立派な身分で、低い處から嫁を取る、所謂氏なくして玉の輿に乘るのは不自然で破鏡再び姿を寫さぬ非運に遭ふ原因でございます。さればこそ美人薄命といふ事にもなります。顔が奇麗といふばかり天女でもないものを崇め奉つて一時の憧憬慾望を充たし得るとも、元々人格の觀念がないから朝夕手生の花と眺めて見ると、育ちが違ふため其生活内容が淺薄で品性が卑賤で、大概萎れた花の行末と同じ運命を辿る事になる。昔祇王をして

萠え出るも消ゆるも同じ野邊の草
何れか秋にあはで果つべき

と歎かしめたのでした。學者と凡婦では凡そ大人と赤ん坊の相違ですもの、赤ん坊と短い時間遊ぶのは面白い、併し生涯の道伴れには飽足らないに相違ない。一生涯の永い旅行には心細いに定まつてゐます、牛は牛づれ、分を知つて幸福は其中から産み出さねばならぬのであります幸福といふものは決して輕蔑の裡にはございません。私は婦人が婚資を持つて來るよりも經濟が上手な方がよいと思ひます。世間では婚資を持つて來る人を喜ぶ傾向がありますが、さういふ人は富貴な生活に馴れて幸福に向つて努力する事を知りませぬのみならず、俗にも貰つた百圓より稼いだ十圓と申す事を忘れてはなりませぬ。

人格に就ても差違があると勿論和合致しませぬ、體格も亦左樣でございます。要しまするに懸隔は出來るだけ少いがよろしい、子供扱される奥さんには眞の幸福はあり得ませぬ。

ロバルトバルソンは結婚に就て危ぶみ獨身の方が氣樂でいゝといふ人を打消し『夫が資産があると妻は保管して殖して行く。夫が資産がなければ妻が得べく助力する。夫が成功して得ると喜びは二倍になる。逆境にあると妻は慰めて夫の重荷を負つて堪へ易くする、夫が内に於て心配し憂鬱を除却する。外に出る時は快よく送つて家に歸る時は歡迎する。』と申しました。一體人間は交際なくては歡樂はあり得ないものでございます。世の中に結婚生活位樂しい生活はない、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

それは生涯の交際であるからでございます。夫の幸は妻の幸ひで、親友の交際以上に超越して居ります。結婚生活は家族が殖える、兄弟姉妹一族繁昌の基で、幸な子供の父となる事が出來、結婚は決して悲觀するものではありません。

口

併し以上は結婚をいゝ方に取つての見方で、これが妻が惡かつた時にはどうなるかと申しますと、全く正反對になつて現はれるのであります。

『夫が資産があると妻は使つて了ふ。夫に資産がない時は妻は貧困を增す。若しみは二倍となる。成功しても妻と道伴れで自分ばかり貴くなつても駄目である。逆境の時は不幸は增大し。夫の重荷を益々重からしめる。』

そこで獨身主義者はいふ、

『寂寥は滿足を與ふ。而して獨身は寂寥である。結婚の紐は鞏固である。妻の運命は其人と共に定まる。不滅の喜びは獨身にある。』

即ち結合の適不適は婚姻生活の幸福の別れ目である、獨身も結婚も一利一害で獨身は幸福が少い代り悲慘も少い、結婚は幸福も多いが悲慘も亦多いのでございます。乍併結婚の幸福は天界世比の幸福でございまして、たゞそれが天祐の地位にあつて、どんな人に打つ衝かるか分らぬ點に遺憾があるのでござゐます。それならと申して獨身主義は不自然であり撚なくなら止むを得ませぬが、ベンジヤミン、フランクリンは嘗て其友の結婚を祝つて斯う申しました。『結婚生活は結婚しない時より値打が出る。箱を御覽なさい、鋏を御覽なさい、箱に蓋がなくては片輪である、鋏も一本づゝでは切れないこゝ、個々別々では社會の半面のみである。』

もつと好いの、もつと好い者と思つてゐる内に年を老る。人生の大部分を他人と調和して暮せるのは實に尊い智識である。是れは結婚生活の定義でありますそれでは結婚生活の祕訣は何かといふと他の人の缺點を見出さない事、迷惑をかけぬ事、衝突せぬ事、惱まさぬ事、私はこれ等の習慣をつける事を敎へたいと思ふのであります。これは無論男子に向つても云ひたい處であります。

若し男が我儘で割が惡い時には、其子を割がいゝやうな子に育てなさい。自己の嘗めた其經驗を以て其子を敎養し、人を救ひ世を救ふのは母たるもの丶獨り享有する絕大なる特權であります。

日本のやうな家族制度の國では、如何に夫が親切にして呉れても、夫の親の家庭に就ての缺點を人に云はない事も大切な一ヶ條である、其樣事は小さい事ではないかと仰しやるかも知れませぬが、併し左樣いふ處に氣をつけなければ家族制度の國に於ける家庭は圓滿に行かぬのであります。記憶に於ても無用の事はなるべく忘れるがよい、夫の親族に就て無用の事を記憶してゐるのは、夫をして早く盲目の愛から醒めしめる原因であります。

私は先程から度々調和といふ言葉を用ひましたが、調和とは犧牲の產んだ結果であります。親子、夫婦、兄弟、朋友、あらゆる社會的交際場裡に於ける調和なるものは犧牲によつて生まれ出づる。相互が自己の主張を飽迄曲げないならば、調和はあり得ない。自己を生存せしむる爲には自己の主張、意見を或程度迄讓歩する必要が常に發見せられるのであります。さうして却つて自己の擴張發達は其

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

裡にあるのでございます。假へば私達が、實夫なり姑なりを喜ばせるといふ事は、實は自分の心の重荷を拂ふ力でございます他の人の重荷を負はなければ自分の喜びは來らぬ、種を蒔かなければ刈る事は出來ませぬ。世間の人は此の犠牲の法則を知らずして自分ばかり貰ふ事によつて幸福にならうとしてゐます。

□

昔の女は非常に從順でありました。盲從して居りました、併し それは怖いからでした。追出されるか殺されるかと讓歩して居つたのでしたが、爵祿は得易く刃の上にも寢られるが中庸は得難しで、日本の女は今迄の世界一の從順から忽ち一躍して過激な者となり、急に生物知りとなりました。男女交際しても昔は七歳にして席を同うしなかつたのが、今日では西洋でも女の方から單獨に男を訪問するといふやうな事はなく、母親と一緒に食事でもする時の外は獨身の男女が語り合ふやうな事はない位でありますのに、日本では女學生が下宿屋に男を尋ねて行くなどは、世界無比の交際振りでございませう。さればこそ身を投げたり心中したりするやうな過程に至りもするのでございます。今日は男が不品行をするなら女もやれといふ人が出來て來ました。其麼處に育つた子供は世の中の暗い方を歩くより外はないでしやう。昔の人は無自覺の從順であつた、今の女は自發したといふ放縦である、併し眞の幸福、眞の徹底したる生活は、犠牲の法則に適つた醒めたる從順でなくてはなりませぬ。

今の女は母親たる事の研究の前に、先づ妻たる研究が必要であります。結婚生活に於ては二人の意見趣味が一致しない時には何れからか讓歩しなくてはなりませぬ、而して其何れが讓歩すべきかは、智略經驗の劣る女子が讓るのは不當ではないでしやう。永い議論を家庭に於てする必要はない、我にも正しい我と我儘の我と二つあるから、大我を取つて自我を捨てねばならぬ。議論をしてゐる時は自分の議論の正しい事を證明する爲にいふ可からざる事後に悔ふる程の事をも申します。家庭に於て永い議論は禁物でございます。自分の意見が用ひられぬでも厭な顏をしてはいけませぬ。常に快潤でなくてはならぬ「私があるからこれ程の事をしてゐるぢやありませんか」とか「私が持つて來たから樂をしてゐるぢやないか」とかいふと、男はそれに堪へられなくなつて了ふさうです。手柄顏はしないがよい、夫に妻の手柄は分つてゐても、報酬を催促するのはいけませぬ、「これは私がした」などゝいふのは淺薄です。自分の事が役に立てば、それが既に報酬である。滿足は其裡にある筈です、何も催促する必要はありませぬ。高慢な風は往々にして家庭を破壞する原因となります。婦人會とか其他大勢の代表者となつた時は、即ち社會的に活動する場合は自ら別でありますが、家庭にありては主婦は人間以上の快潤でなくてはならぬ。快潤な顏にニコ〳〵してゐるのは子供でも嬉しい、愛婚は家庭にありては光明であります、これが失はれると家の中は暗くなる、愛婚は一家を照す光であります、意見をするにも快潤と愛婚とを失はない範圍に於てしなくてはなりませぬ。

□

一旦夫婦になつたら妻にありては夫は全世界である、全世界に交つても代へる事が出來ぬものでなくてはなりませぬ。鋏は反對に働くが中に這入るものは必ず切つて了はなくては止まぬ。夫婦の間にありましては、たとへ親切な心を以て付入つても、這入れば必ず卽座に斬らなくてはなりませぬ、夫婦の間の中を裂く樣な干渉する人は元より兩方から防ぐといふ事に一致せなければなりませぬ。これは結婚生活に於て極めて大切な事項であります。

外國でもどういふ譯で結婚したかといふ事は決して申しませぬ。自分は內に關いでも外から侮りを受けぬやうにする、これは結婚の道徳でございます。また未來に希望を持つのは現在の苦痛を免れる最も適當なる方法でございます。(校閲を經す文記者にあり)

寄書

根本に着眼すべし

福井壽郞

一 緒言

廓清を受取つて、新しき記事に目を落す毎に、私は深き吐息に期せずして陷るのである。嗚呼文明を叫ぶ吾人の前途は未だ黑煙渦を捲いて些の靈光の照すものがない。さりとは前途遼遠ではないか。

我が廓清の大使命、醜惡汚穢の事實は社會各階級の表裏を通じて山積せられ、法律は常に空文に等しく、秩序は空しく泥土に委せられて顧みる者がない。實に泰平逸樂の夢に耽るを裝ふ吾人の周圍は正に之れ百鬼晝行、而して社會の各員は醜惡見聞するに堪へざる男女の肉より誘起する全くの看過すべからざる重大問題を普通事として放擲してゐる、否社會は看過するに止まらず社會人員の多くは自己亦此の渦中にありて紳士の口に爲す可からざることを平氣に腆笑裡に語り、婦人の辱として恥づべきを恬として歡んで聞く。

咄！咄！何たる厚顏、何たる不量見、何たる不貞潔何たる淫靡、余は此等の人面獸心の徒輩に對して與ふべき語を知らず。

彼等は既に此の永き陋習に廉恥の心を失ひ貞潔の權威あるを知らないのである。彼等の頭腦裡には只だ黃金を以て得べき淫樂の慾望と容色を利して人骨を腐爛せしむる術を知れる獸慾の閃きあるのみ。さりとは悲慘の極りではないか。

藝娼妓の驅逐元より當面の急務であらう。私娼の撲滅所謂酌婦の排斥須臾も缺くべからざる所であらう。併し乍ら何れ劣らぬ斯かる賣春婦を全滅すればとて、始皇の學者を坑にしたるに等しく決して安心の出來る者ではない。加之男女の貞潔を根本とすべきに之れの驅逐を第一重要事とするは些か見當違では無からうか。

余は淺學黃口何等社會問題の實際に携はらないけれども此に平素の愚考を披瀝して識者の御一考を煩はし度いのである。

二 藝娼妓を如何に？

賣淫者階級の鏖殺！余は內容同一なるファクトを有する藝娼妓、私娼の救助、之れ等營業主の呪咀よりも、先づ賣淫當事者には最善なる病毒の豫防法を設定し之を強制施行せしめ、英に於ける私娼の如く危險少なきものたらしめよと言ひたい。事實に於て廓清者の聲が如何に大なりとも、此の賣笑の社會バチルスを一朝にして擊滅せんとするは他の幾多ペスト菌、チブス菌、ゴノコッキン等單なるバチルス驅逐と同日の談ではない。併し我々は一朝の全滅を不能なりとして恐るべき害毒を知り乍らに不向に附して暗黑裡に蓋臭的に放擲し置くことが出來ようか。若し害を知りつゝ不聞を裝ふものありとすれば之れ人道の勇者ではない。擁護者ではない、斷じてペイトリオトでない。否々彼れは吾人が仇敵である賣笑婦と同一の攻擊を受くべく葬るべく又其の怯なるを敎へ救ふべき人間である。

要するに藝娼妓の救助全滅を計り營業主の撲滅を策するのは些々たる枝葉の小問題、人身奴隸たる賣笑婦をして自由の風に觸れしめるは有識者必然の主張と爲すべきである。併しながら幹根なる本源は他にある。故に余は人智なく醜汚を知らざる賣笑婦及び買笑男には嚴密なる檢

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

毒豫防を強制し其の施行者としては斯かる強制度を許可せる當局者をして爲さしむるに止むるものである。

三　現今の一夫一婦の制

東西古今、人類を支配すべき最高の眞理は唯一である何物の干渉をも許すべきである。宇宙は空々漠々、人口は十七億たりと雖も人を律すべきは唯一の眞理、實に之れ「一夫一婦」の法則にある。アダム、イブが世に在りて愛の泉を掬してより罪世に生れたりとは言へ此の時より一夫一婦は獸類ならざる人に與へられたる天の道であつた。而して此の一貫の眞理は神代より定められて來るべき數千年、數萬年後も溌溂として生きて眞理たるべきは一點疑ふべき餘地がない。

却つて此の尊嚴なる眞理に心底より隨喜して行動して行く士人は何程あらうか。之れ余の言はんとする最高なる眞理の解剖である。歐米先進國の事實は余これを深くせず、我が日本に於て不完全ながらも家族制度ありと誇る士人が此の眞理を無視してゐる人々が歐米の比例よりも遙かに多數なる新聞に出づる人情より出づる性慾面の醜事實の多きによりて首肯せられるではないか。

一夫一婦の戀念。余の言を以て或は奇怪なりとする者あるかも知れない。併し余は今の日本人の多くは獸類に劣る一夫多妻、或は一妻多夫なりと笑つて遣り度い。西歐文明を謳歌したる日本人は日本武士の貞節、大和撫子の貴き品格の前に何の顏ありて對する事が出來るであらうか。余の言ふ一夫一婦は只だ形而下に見る單なる血肉の結合を言ふのではない貞童とバージンとの心琴の抱擁、此所に初めて神聖恥づる所なき一夫一婦が發見されるのである。高尚なる愛に連なる家族の名稱がある、然るに目今邦國の狀態は余が此の言に對して異論を提出し得る權ある者殆んど何人も無いのである。

彼等の或る者は一小域なる家庭に於ては嚴格を衒ふ一夫一婦なるかも知れない而して余は此の似而非夫婦の相互に尋ねたい。「御身は御身のベターハーフ以外に嘗て肉を求めずや、又た求めつゝあらずや」と。

靜思冥想して此の質問に顏を赤らめる人は蓋し隨分の多數に昇ることは薄學非才なる余と雖ども不幸にして、斷言するの權を有するのである。今の女學生にバージンを望み得ず、今の青年に貞童を期待し得ずとは有識の人の明らかに認めてゐる所である。余は犯せる罪を悔悟の後迄も烈しく詰るに忍びない。而も斯かる道德上の罪人は、法律上の罪人よりも其の罪遙かに重大にして、此の重大の罪を犯すは現代青年の意志の薄弱に起因してゐる事を知つてゐる。

四　然らば根本は何處にありや

現今の青年は男女共に誘惑に陷り安い。之れ或は文明の進歩に伴ふ餘儀なき弊害かも知れない。併しながら青年が各自の天に享有する尊き使命を自覺する心だにあらば此の結果は起らぬのである。男女接近すれば益々吾人は堅實なる意志を要するのである。

此の嚴格に身を處すると云ふことは隨分と困難に見えるかも知れないが左程にも困難なるべきものではない。

歐米の青年は吾人よりも多くの機會を有して接近してゐる。而も厭ふべき風聞は割合に起らない。此れ其家庭の行き屆ける監督と彼等が幼より敎養せられたる宗敎思想の發達せるあるとに依るのである。我が青年には此要點が缺けてゐる。

次いで中年者老年者階級は如何、余は

此の人達に最も多く根本の缺點を攻めなければならぬ。日本社會を害する最も甚だしいものは中年老年の中流以上の生活を營みて社會の師表として立たざるべからざる此等人士が頑強にして根治し難き良風習の破壞者である。此階級の人は其の士女に對して俯仰天地に恥ぢずや、士女教養の大任を全からしめ得るやと質問したい、青年の道を誤る因又一は此の階級を見習ふにあるや論なきものである。

日本人民は今や正に全 般を通じて斯くの如く噴火山 上に遊ぶが如く何時横死すべきやを知らざる危險極まる傾向に進みつゝある。斯くて余習は淑 女と云はれ紳士と云はれ貴婦人なりとせられ富豪なりとせられ女學生と稱し大學生と云ふものに對して迄滿腔の疑問と冷 笑とを有してゐる。此の美はしき名の内に陰れて醜なる肉の根本は思ふが儘に繁 殖し蔓延し毒 爪を磨いてゐる。

余は此所に於て人々に尋ねたい。

「貞潔の價値を滔々する諸君は如何に輕んずるや」と此れやがて日本を亡ぼし人 類を亡ぼす繋である。

五　救濟策如何

然らば此の陋風を掃蕩すべきの救濟策如何？

余輩は此の社會弊風を救濟し人生を廓清すべき主要なる策として無智なる者に實踐的教育と各人の自覺を喚び起し、加ふるに宗教道德の信念より之を善導すべしと言はざるを得ない。

現今の教育、宗教、道德、其の外 觀は堂々たるものがある然し之を人に授くべき當事者には甚だ心 細き人がある。貧 弱なる人がある。無恥なる愚民を導くべき努 力と眞實とが必要である。缺點ある人格者をして此難 局に當らしめんとするのは恰も基礎を設けずして沙 上に大厦高樓を作らんとするもの、内心健全にして眞 情の發露を以て百折屈せざる心底を有する者に至りて、初めて孔子の說 教、釋迦クライスト、マホメツト、老ブースの本心を體して愚庸を導き得るのである。

而して此の三者を以て導くと共に廓清の叫聲を大にして普く天下の同志を糾合して、不德操漢を容赦なく排斥し濟度し得べきは之れを全力を以て濟度すべきである。

斯くて夫婦の權威を衆人に知らしめば廓清の業は易々たるべきである。余は廓清會に望むに大いに德操問題の輿論惹起の中點たるを欲するのである。

六　結　論

要するに此の男女貞潔の大社會問題に於て其の最急務は男女相互を自覺せしむるにある。現今の社會は中毒せる不能なる病的社會である、若し社會の各自が自己の尊嚴を知り生の徹底を思ひ、社會之れを導くに充分なる制度と設備とを以て爲せば陋風蠻俗の一掃難事ではない。

要は自覺自尊の精神にある、社會は畢竟之れが附屬のみ、各人が積極的に覺醒によりてベタークラスに赴くに至りて初めて美はしき成果がある。

而して此の覺醒せる社會に於ては自然の淘汰に依りて劣惡なる社會の賣淫者階級は手を待たずして自滅するに至る。吾人は枝葉たる賣笑者階級を救助よりも社會全般に漲れる風潮の惡きを誡め夫婦青年の貞潔を根本的に解決し自醒せしむべき努力するが廓清同志の要務と思考するのである。（大正三年八月八日稿）

宮内遊廓復興請願　山陽新報の報ずる處によれば「備中國吉備郡宮内は、數百年來遊廓地として名ありしに、維新以來衰微し竟に今日の如く疲弊せるも、此の如き歷史を有する地なれば、遊廓を復興せんめんとて、頃日有志者相謀りて協議し、有志者二十餘名復興請願書に調印し、一兩日中に其筋に提出する由。」耻づべき歷史を尊重する彼等は何等の愚、何等の妄ぞ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

自廢を地方の警察はどんな風に扱ふか

◉伏見警察の暴戾

京都　救世軍小隊

京都伏見町中書島本柳町貸座敷、圓田はる方抱娼妓奥村サキ(三十二歳)は今より十五年前〆ツタ五十圓の借金にて娼妓稼業に身を沈め、以來數ケ所へ住替を爲し遂に四年前二百八十圓の證書にて前記圓田はる方に住替し本年四月十九日にて年期明となりしにも拘はらず、樓主は種々に口實を設けて本年七月まで働かしめ其上今度は又向ふ五ケ月間も働かしめんなどゝの奸計を廻らし、本人は性來腦病リウマチス雜などの疾病ありて稼業も思ふ樣に出來ず、二階より轉げ落る事も二三度ありといふ位なるに殘酷なる樓主は强て稼がせやうとしたるより本人は愈々此の醜業を止めて正業に復せんものと決心し、遂に廓を飛び出し救世軍京都小隊に援助を求めしかば小隊長高城中校は早速本人同道にて伏見署に至り其旨を申出し處、署長は樓主と連印にて屆出づるに非ずば受理し難しとの事により、中校は此問題に付ては本人及び實父は再三樓主と談判を爲し借財は月賦にて返濟せんと談ぜしも、樓主は頑として聞き入れぬにより、到底樓主連印は不可能の事なりと辯ぜしも更に署長は受理せざるに依り、中校は本人を引き連れ京都府警察本部に至り廢業を斷行せんとせし處署長は奥村サキに向ひ「其方は逃亡者と認め居るに依り三日間の拘留に處すと」と宣言す、中校は驚き之を不當とし當人が廢業の目的を以て廓を出でたるものなれば之を拘留に處すとは非理なりと辯じたるも、署長は聽かずして遂に拘留所に入れたり。是に於て中校は警察本部に至らんとして伏見署を辭して二三丁歩みし處、忽ち十名許りの暴漢等が來りて中校を取卷き暴行を加へながら一二丁距れる中書島組合事務所に連れ行きたり。折から此邊を通行せし巡査は此有樣を目擊しながら中校を保護する事をせず只暴漢の後に尾行して共に事務所に入れり。中校は其巡査に向ひ「警官たるものが斯る暴漢を見之を制せざりしは何故ぞや」と詰問せし處巡査は「余は此事件が如何なる理由なるやを知らざりしにより制せざりしなり」と嗚呼彼は事件の性質によりては暴行を是なりとするか、此問答中に事務所の內には數十名の樓主并に暴漢群集し、屋外には見物人山をなし、內外危險の狀にあるにも拘らず巡査は中校を一人殘して立去れり、果然巡査が去るや否や群がる暴漢は再び中校に打てかゝり頭部又は面部を毆打し暴戾至らざるなし、中校は死を決して居りしが其中に暴漢等も少しは靜まりかへりし頃、警察より注意ありて取締を呼出され何事か密談ありし後、事務所の委員數名にて中校を保護して歸京の途中怪我の無き樣に伏見京橋電車停留所まで見送りたり、時に十一時半なりき。翌午前九時中校は京都警察保安課長富田警視に面會し、伏見署長の不都合なる處置道路事務所內に於る暴行、奥村サキの廢業右三件を迫りしに、恰も此時伏見署長河隅警視も來合せ居りて早速談判に取かゝり深く警察の不行屆を謝し、且つ其暴行者并に其巡邏巡査等は一應取調ぶる事とし、中校は伏見警察署に至りサキを引き取り無事親戚に引渡したり。

◉分った藤枝警察

江尻　矢崎喜三郎

靜岡縣志太郡藤枝町新地、山泉樓山下啓二郎方抱娼妓都事中山さよ(二十八)は去る七月廿四日當所に書面を以て救助方を求め來りたる故、余は早速事實の調査を爲し例に依りて廓淸雜誌數部を藤枝警察署に送り置き、愈々七月廿七日午後三時山泉樓に至り娼妓都に面接し決意の程を確めたるに折しも樓主啓次郎不在なりしが、家族の狼狽一方ならず樓主の妻かぎは、余に向ひ樣々なる暴言を吐きながら馳け出し、急を隣家に告げしを以て、貸座敷取締役千葉樓々主奥野勝藏十千樓主岡野谷芳太郎伊織屋樓主伊藤與兵衛等時を移さず集り來り、異口同音に山泉樓々主見付町貸座敷太平樓に用事あり參りし故歸宅する迄猶豫ありたしと申出しを以て暫時待ち受け午後八時漸く樓主に會見せしに頗る不滿の體にて貸金の返濟を成さゞる以上は、廢業に同意致し難しとの意見なれば余は借金と廢業とは全々別問題なる旨を說諭せしも樓主は容易に聞き入る模樣も見えざれば、何れ明日委しく說明する旨を告げ午後十一時一と先づ都を同道し警察署に出頭廢業の屆出を成したるに、宿直の巡査は余等に向ひ今夜は監督者も居らざれば明朝來署ありたしとの挨拶なるが、娼妓は據りに他に宿泊する事の出來ぬ規程なれば、余は都と申し合せ同署の控室に徹夜する事と決心し、腰打ち掛け夜の明るを待ち居りしが、翌午前一時一人の巡査來り今は蚊時にて斯る場所にて徹夜するも氣の毒の次第故何處へか宿泊し、明朝九時頃出署ありては如何と同情を寄せられたれば、娼妓外泊の件に付て豫め認諾を得都と共に警察署を出教會を尋れ新田牧師に會し、逐一事情を述べたるに、同牧師は喜び余等を會堂に案內し都の將來身上に付て懇々說諭せられ且つ熱烈なる感謝祈禱を捧げ、就寢せしは午前二時半なりし翌二十八日午前八時余は都同道警察署に出頭せんと警察の門前に至りしに樓主啓次郎は警察署より馳け出し余等を止め僅か十分間にて宜しければ最後の意見を申上げ度しと强ゆるを以ては余は一應警察署長に面接し前日の模樣を陳べたるに署長は毅然として樓主側より樣々の申立あるも全く拒絕せりと、余は署長より此挨拶を聞き大に喜び(署長片山德藏氏は森町警察署に在職中娼妓廢業に就て吾人に便宜を與へられ、廓淸第二卷十一號に掲載せられし事實あり)安心して余は樓主と共に牧師館に至りしに、兼て樓主が示し合せし者と見て取締奥野勝藏及娼妓周旋人增田源造其他二三人者來り、自廢としては世間の手前もあれば表面合意の廢業と致され度しと哀訴せるを以て、吾人は假令名義は如何にあれ、本人の目的を遂せしむれば足れりとの精神にて交涉を容れ即時屆出の手續を成し、都は自由の身となれり。

雑誌の雑誌

修養

基督観

TM生

大哲スピノザは元來ユダヤ民族の出で有て、アイヂリストの哲學者で、純粋な基督信徒ではなかつた。然し彼れは基督に就いてかう言つて居る。『基督は自ら神の宮殿なりと標榜されたのであるが、其の言は眞個の基督の眞相を顯はした者である。何となれば、神は重に基督に於て自らを顯現されたからである。』と。其の次に見逃すことの出來ないのはカントである。或時一批評家が彼れの教とイエスのそれとを比較した時に、カントは斷然としてかく云つた。『さういふ名前(イエスの)は諸々の天が其前には低頭する。依てそれが如何に神聖なるかゞわかる。他の名前(カントの)は己が能力の最善を盡して師事するところのイエスの教訓を闡明せんと欲して努力しつゝあるつまらない學者の名前である』と。

それから高等批評の策源地ともいふべきチユービンゲン大學のスツラウスは、聖書に付いては遠慮なき批評を試み、正統派の基督教よりは蛇蝎視せられた人であるが、彼れが基督に對する論評は其の眞情の流露とも見るべきであらう。即ち彼れは「基督は歴史上如何なる人格も近接の出來ない最高無比の人格である」と斷言し、又レッシングは『人生に於て最善最潔なるものゝ源泉は基督である』と喝破した。更に佛の文豪ルナンもこれ亦正統派の基督教から見れば、異端視される人物だが、彼れが基督に對する眞個の告白は『汝と神との間には何等の區別なし』との稱贊であつた。最後に英國の大批評家マシウ、アーノルドは『眞の神は正義をなさしむる永久者なり』と稱し更に『イエスは其の永久者より生れ、而して其の精神は人類の歴史を支配するといつて居る。

以上は前述の通りに、決して基督を救主と尊信するといふような見地に立つたる學者文豪ではない。寧ろ理論一點張りで宗教上の眞理をも理性によつて理解せようと努めたところの人々であつた。然しながら彼等が基督の人格に對するや、低頭平身以て其の偉大なる或るものにうたれざるを得なかつたのであるから、上記の證言が思はず彼等の口を衝いて出たものと見てよからう。此の證言たる實は正直な彼等の告白であつた。彼の歐洲大陸を席卷したるナポレオン、彼れが其の全盛時代には腹中神なく宗教なく傍若無人の振舞をやつたのであるが、彼れが壯圖も槿花一朝榮と消え失せて、セント、ヘレナ島に配處の月を眺めるようになつては、心靜かに今古の史上の人物を稽へ、其の想ひ一度基督に到達するや、部下の將士に向つて『ナザレのイエスは人に非ず』といつたのは有名な言である。(基督教世界)

婦人と宗教

成瀬仁藏

婦人はどうしても家庭の中堅となつて一家の平和を保ち夫を助け子女を教育して行かねばならない大責任がある。そして此家庭の主婦としての任務は、從來の如く臺所や裁縫の仕事ではなく、精神的に一家を持つて行くことが今後の主な仕事となるのである。主婦に確固たる信念がありさへしたなら、家族の間も圓滿に行かうし、一家の經濟も故障がないであらう。のみならず何より大切な子女の精神教育に大なる感化を與へるものは母である。小楠公の母やワシントンの母や、リンコルンの母や孟子の母や、皆賢母として精神的に家庭教育を行つたものである。次に此信仰があれば、突然の災難に遇つたり境遇の變化にぶつかつても、びくともせずに落ちついてそれに當ることが出來るのである。

たゞ呉々も言つて置きたいのは、こんな信仰は決して病氣を癒す爲めの手段や、金を儲ける爲めの方便ではなくて、自發に心の中にインスピレーションに感應して生じた精神的な力でなければならない。お大皷叩いてお題目を唱へたり、教會に集まつて讃美歌を歌つたりすることを信仰だと思ふと、とんだ間違が生ずる。

婦人は宗教的信仰を得ると共に、これを外に發表して慈善事業の爲め大に盡されねばならない。貧民救助、免囚保護、賤業婦解放、不良少年感化、盲唖教育、幼老養育、肺癩療養等、慈善の急を要する事業は到る所にあるのでから、心ある婦人等は大に是等の點に注目

し、生き効ある精神生活を續けて行たいものである。（婦人評論）

下戸の日本上戸の露西亞

ドクトル 宮柳仁

飲酒家と非飲酒家の死亡率を比較して見ると、西洋の統計ではあるが、千八百四十六年から千九百一年までに、非飲酒家は健康數、男子が二萬九千九十四人、其の生活年齡の總數が三十九萬八千十年、死亡數は、五千百二十四人になり、飲酒家の方は男子三萬千七百七十六人、其の生活年齡總數が四十六萬六千九百四十三年、死亡數は八千九百四十七人に達してゐる。此れで見ても飲酒家の方が餘計に死ぬことが分る。また年齡に於いて飲酒家と非飲酒家の死亡數の差が非常に著しくなつてゐるが、之れは年を取るに從つて漸々少くなる、壯年の酒を飲む時代には、最も此の懸隔が著しく現れて來る。

飲酒家の手が顫ふのは吾々の往々目擊する所であるが、飲酒をしない場合と、麥酒を二「リートル」程飲ました場合を比較すると、其の震動の度に於て實に著しい差違を見る。更に飲酒と災害數に就て見ると、工場などで手を機械に挾んだとか、足を辷らしたとかいふ割合を瑞西のチユークツヒ大工疾病共濟會が調査して居る。乃ち一週間中に届出た災害の數に對する百分率で、月曜日の二十二程の災害に對し、外の日十五位の割合になつてゐる。是は前の日曜日に酒を飲んだ結果が月曜日に現はれて、工場に於て災害にかゝつたのである。

獨逸に於て一萬七千百十五人の重罪者と七千三百九十二人の輕罪者と、何れも皆男性のみにて、之を常習飲酒家と臨時飲酒家に區別し、又其犯罪の種類によつて細別した統計を觀察すれば飲酒と犯罪との關係が能く分る。即ち重罪者の方は傷害、謀殺或は毆打致死、猥褻淫姦、竊盜、放火、殺人などにて、亂暴をして人を傷けたり、人を殺したり、人の物を奪取するといふやうな犯罪は常習の飲酒家に多い。謀殺、詐僞は多少頭腕を使ふが故に、飲酒家には割合に少い。氣の利いたことは飲酒家には出來ないのである。此事實は一面に於てアルコホールの害毒が精神作用に惡影響を及ぼすものなる事を示して居る。

フオーレル氏が下戸の日本が上戸の露國に勝ると嘆賞したのもあながちお世辭ばかりではない。（生活）

謙遜

山田寅之助

口に言ひ易くして、實行し難きものは謙遜である、この德は神と人とは悅ばるゝにも拘はらず、世には極めて稀に見る所の德である。

或人アウガスチンに向つて、宗教の第一義は何ぞと問ひしに、謙遜なりと答へた。第二義はと問ひしに謙遜なりと答へた。第三義はと問ひしに、亦謙遜なりと答へた。宗教は始終謙遜を以て一貫するの理を示したものである。主イエスも『もし改まりて嬰兒のごとくならずば天國に入るを得じ（太十八〇三）』と敎へ給ふた。

イエスは謙遜の人である、『我は心柔和にして謙遜者』と自ら語りたまふた事がある。

パウロが主を指して『己を虛うし僕の貌をとり人の如くなれり旣に人の如き形狀にて現れ己を卑し死に至るまで順ひ十字架の死をさへ受るに至れり』（腓二〇七八）と云ふた、主の建設する天國には高慢の人の入り難きは當然である。

王陽明曰人生の大病は只是一つの傲の字なりと、又曰謙は衆善の基、傲は衆惡の魁なりと、孟子曰『人を愛して親まずんば其仁に反れ、人を治て治まらずんば其智に反れ、人を禮して答へずんば其敬に反れ』と是れ己れを顧みて、其足らざるを知れとの意にて、謙遜の人にして始て出來るのである。

惡魔は人を捕ふるに必ず其鼻を捉る、鼻の高き程捕へられ易いからである、謙遜なる人は惡魔に捕へられぬものである、神には二つの御位がある、一つは最高の天の上に、他は最低の人心の中にある、謙遜の人は神と倶にある人である。（護教）

〇社會

棄兒に添へありし親の手紙

東京京養育院
市場學而郎

世にも憐れなる棄兒が市内警察署から絕えず送り届けられるそれには必ずその親の手紙が附けてある、今養育院に保存しある其手紙の數例を左に紹介する。

謹で一筆啓上仕候我れ等兩人古鄉より參り何不足なく暮し居り候處昨年より打續てサイナンにて大いなる借金なし最早今年は其爲身を取りまかれ何共致し方なく一家死をはかり候共死後の候を恐れ種々思案の末手足にまといの此子を甚だ恐れ多き事なれど御院に御願申及び候何卒行末とも宜しく御願賴申候敬具。

東京養育院 御中

此子は今だ無籍者姓名は何卒左記の如く御賴申度候也。

年月は今日を以て、二男で、豐原 賴正 十月廿日

東京養育院 御中

末ながら別紙は賴正の身に附け置下され
書置

人世に生るればかならず親あり親が子を思はん者はなし我れにも六十餘の兩親あり不孝にして今だ兩親に

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

浮なさずして今の有樣なさけによりて成長の後は我れを力多きとも思ひ起さん許しあれ許しあれ我れも人なり然共人道を守りへん事は一日たり共我が心を至らず後の世にて手を取りおわび申さん只々御許しあれ日夜れんづるハ

八幡神社
神様に事をウツタへ居るものなり　十月廿日
兩親より　豐原賴正殿へ

（右は明治四十一年十月二十日深川區龜住町三十五番地法乘院境内に遺棄されしもの）

世のなに人かになにぶんおたのみ申上候こども三人なにぶん御たのみ申上候長女六ツわなつのせしゐじにしてありますぢんご郞と花子わ無とゝけなればなにぶん御たのみ申上奉候又ぢん五郞に平尾の家めゐたつがせろやうになにぶん御たのみ申上候つまなつわ六月十三日りゐんゐたし候なにぶん御たのみ申候草々わたくしざしさゐありて世の人のゐみきらうことお口にゐたし候へども心にわみじんもくもりなしよろしく御すゐりよ御ねがゐ奉候

平尾耕作

（右は大正元年九月十六日神田區美土代町一丁目廿三番地借家に遺棄されしもの）

婦人の政談演說傍聽

昨今警保局では大隈首相の命で治安警察法の改正を計畫しつゝある其の内に女子の政談演說傍聽を許可する件につき調査研究して居る、之れに就き安河内警保局長曰く。

大隈伯は來議會に女子政談演說の傍聽許可の議案を提出する筈で自分は其の調査研究を命ぜられたから二名の書記官と共に昨今調査中である此の問題は明治三十七八年頃より每議會の懸案で第二十二議會に中島歌子が運動の火蓋を切つて以來漸く八釜しい問題となつた昨今英國の婦人連が參政權運動だとか云つて猛烈に騷ぎ始めてから日本の新しい女とかいふ連中も大分かぶれて來たやうである。併し此問題は誠に厄介至極なもので私共も尠からず頭を惱まして居る大木遠吉君の如きも女子の政談演說傍聽を禁じながら議會の傍聽を許すのは矛盾だと云つて居るが議會は神聖なる場所で傍聽人は彌次つたり拍手したり聲援する事を嚴禁されて居る上傍聽人に對する監督も警戒も嚴重だから決して宿く婦人に弊害あるものでない一體婦人は感情に趨り易い狂熱的であるから一般に政談演說の傍聽を許可する時は群集心理に同化して隨分婦德を傷ける行爲がないとも言へぬ英國婦人參政權論者の如きは好適例である今度制定する治安警察法は是等の事に關して出來得るたけ理想的にやりたいと考へて居る要するに女の政談演說傍聽の可否は目下研究中でまだ何れとも決定せぬが十分愼重の態度を執つて該問題及び上述各種の問題を極めたい考へである（大阪朝日）

交戰國の婦人

歐洲の天地は想ひがけぬ血煙飛ぶ此世ながらの修羅場と化し美しく輝いてゐた文明は黑い魔の手を掩はれたが、此等祖國の爲に、山行かば草蒸す屍海行かば水く屍となりて勇戰奮鬪する最愛の夫を戰場に送る妻、さては可愛しの我子を砲烟彈雨の巷に送る母、げにや歐洲の地は哀別死別の悲劇を演じつゝある。いでや之等交戰國の婦人氣質を紹介せん哉。

▲佛蘭西の女　何處の國でも女子は感情的の者であるが、特に佛國の女子は感情的で、熱情で、愛國心が強い、彼のジヤンダーク抔愛國心の強いのを證して餘りありだ。又感情的で熱情の強い事は最近彼のカイヨー夫人が、最愛の良人の爲に殺人罪迄敢て犯したのでも知れる。又佛國の女は自由な國柄丈けに何うしても氣隨氣儘な風習に慣されてゐるから、理性や道德の點は著しく劣つてゐる、その代り極めて怜悧敏遠である。又佛國の婦女子は家を治めるよりも、寧ろ我美貌に力瘤を入れ化粧三昧に浮き身をやつすので、兎角虛榮心が強いのである。

▲獨逸の女　獨逸の婦人は總べて勤勉な着實な、云はゞ世話女房として申分がない。隨つて家を治める事も旨く、貞操も堅固で、所謂良妻賢母と稱せられてゐる位である。獨逸の女は皆一種の獨逸魂ともいふ可き負けん氣の男優りの雄々しい氣象を有してゐる、戰時に於て我國の篤志看護婦會の如きものがあつて、盛んに後援を勤めてゐる抔は我國の婦人に似通つてゐる。又獨逸の婦人は自分の欲する事を凝と我慢すると云ふ、至極家族的な健實な性質を有してゐる。

▲英國の女　英國の女は恰度佛國と獨逸との間に位する者で、その家庭的で道德的な所は獨逸の女に能く似、美貌容姿を襲ひ流行を追ふ所は佛蘭西女に似てゐる、最近の婦人參政權運動で女だてらに亂暴を働く所抔は、輕燥な感傷的な佛蘭西魂を受繼いでゐるとも見られやう、又英國婦人は悧發で名が高い樣である。

▲露西亞の女　素直で正直で致つて宗教心が強いどちらかと云へば一般に愛情が濃厚で同情心慈善心に富んでゐる。結婚祝賀等の風俗は極めて濃厚で、若い娘達が欣々として相集ふ樣は露西亞獨特のものであらう。只一つ缺點は最近急に文明の進んだ結果日本の女學生が急に生意氣となつて、所謂新らし女共が從來の記錄を破つて續々現出します樣に、危險な社會主義の思想に感染して、女だてらに狂暴を働く連中が多い樣である。

▲墺太利の女　淫靡な婦女が滔々相率て男を弄び、男に情を賣る樣は恰かも賣笑婦の形である、墺太利の女は誠に色深い事世界一品であらう、その肉體と云ひ、言葉と云ひ何處までも性情を挑發する感覺的に優美に出來上つてゐる。（東京夕刊）

南洋の新らしい男女

高木靜子

最近ストレイトタイムスの所報に依れば數十日前南洋馬來半島アルトレンガヌの一部に於て人類學上最も興味ある新らしい人種が發見せられた。

新らしい人々の身長は、他の土人に比して大差なく、女は稍々男に比して小さいが、強い臂力と、引緊つた筋肉とを有する事は男と少しも違ひ無い。それで面白い事には男女共に毬栗坊主で、色は眞黒、平べつたい鼻や、恐ろしく飛出た顴骨を有する程獰猛な風采を有しながら、他の部落に屬する人々に見られる事を非常に恥かしくて心得て居る、荒野の木影に於てチラと異つた土人を見る事があつても脫兎の如く草叢の間に逃げ込んで、再び逢はねばならぬ時は、出來る丈の服裝を整へて居るとの事である。

道德的觀念は他の部落に比して頗る高い、結婚は未開人が共通に行ふ如く甚だ簡單なものであるが、而も一度結婚すると兩者の間はなか／＼離間されない、其儀式は頗る變挺なもので、先づ花嫁が盛裝して大きな蟻塚の周圍を逃げ廻る、それを花聟殿が捕へんとして追蒐るのであるが、萬が一花嫁をどうしても捕へる事が出來ぬ時は忽ちにして緣談破却せられると云ふ習慣が嚴格に行はれる、かくして夫婦が共同生活を送る中、お互に厭氣がさして到底末の見込が附かぬとなると、二人は酋長の前に出て其旨を申立て、奇麗サッパリ手を切つて了ふ、此邊は頗る面白い、其代り仲が善い時は、野蠻人の常として子供を殖す事夥しい、忽ちにして大きな家族を築き上て了ふ、云ふ迄もなく彼等は一夫一婦論の實行である。（婦人評論）

談叢

ものを言ふ繪葉書

繪端書もこれほど奇拔なのは珍らしい、これは亞米利加で最新流行のもので、それは普通の繪の外に蓄音機の**レコード**が喰つ附いてゐる、此**レコード**端書を蓄音機にかけると、吹き込まれた音が出るので、其れが文字代りともなるのです、之と同じ趣向を寫眞に加へ、寫眞中の人が其の**レコード**に自分で何かを吹き込んで置けば寫眞が物言ふ譯です「コンな便利な世の中に、なぜに寫眞が物言はぬ」と云つたのは、もう昔のことです。

生命を抑壓して延長する

巴里理科大學教授**マウル・ベッケレル**博士は、和蘭の**ライデン**に於ける**オソネス**教授の實驗所に於て種々の研究を積んだ結果として、生命といふものは一時抑壓を加へて休止の狀態に置けば、之を引延ばすことが出來ることを知るに至つた、尤も抑壓を加ふるには形質の最高乾燥、絕對眞空と、甚しき低溫度との三つの條件が必要で、氏は之が實驗として菌の萠芽數種を取り、眞空管内に密閉して、三週間の間華氏氷點下三百十度を有する液體空氣中に置き、やがて七十七時間の間零下四百十八度なる液體水素中に入れ置きて後、管から取出したるに、直に發育すべき筈の菌は、或は一年を經過し或は二年の後に至りて漸くに發育を始め、其枯死期が一年若くは二年のほど延ばされたことを認めたのである、若し實驗にして若し極めて正確なものとすれば、生理學上及生物學上面白き發見であると云はれてゐる（萬朝報）

家庭

御子さんの爲めに

井上友子

多くの家庭で阿母樣方が小さい御子樣のお便通などに充分な注意をして居られません。例へば私共が病家へ參つてお子さんの診察をし、お通じはございましたかと御尋ねしても、サア何うでしたかと云つて保姆や女中を呼んで聞き、始めて有無の御答をなさるのが普通です。通じの有無さへも知らない阿母樣が、況して其上詳しいことを御存知ないのは言ふまでもありません、其處に往くと感心なのは歐米の家庭の母親です、朝の食事が濟むと必らず小兒の通じをさせに懸る、さうして催して來るまでも便器に寄らせて置きます、尤も彼方の便器は椅子の中央に孔を開けて、其處に腰を掛けさせて置くだけのことですから非常に樂です、日本でも何とか工夫をして、モツと便利なものにしたい、通じは初めの習慣で、少し面倒でも小兒の時に好く注意し、每朝起きたら直ぐに湯冷しを一杯飲ませ、若し便秘勝ちならばそれに一匙の食鹽を入れてグツと飲ますか、或は每朝梅干を一口食べ、果實なら夏蜜柑プルンス（干した黑い梅で西洋料理店に在り）林檎の皮と實との間のザラ／＼した處などを少し宛食べると、腸胃を刺激して便通を催します。通じの時間も亦習慣です、每日朝早くとか或は夜間とか一定の時間に、厭でも應でも便氣を催すまで面倒を見て遣る、それを十日か二十日も繰返して實行すれば後には必ず習慣が付いて、其人の健康を何の位助けるか知れないのです。通じの惡いと云

ふことはさま〴〵の害を醸すものでして頭が痛い胸が痛い、肺病ではあるまいか、肋膜でも悪いのかと云ふやうに言ひ草の多い病人に、一度通じを好くすれば立所に直て仕舞うと云ふ例が屡々あります。（時事新報）

氷と衛生

氷に天然氷と人造氷の二種ある事は世人の熟知してゐる處であるが、天然氷は如何な清潔な場所で、注意に注意を加へて凍らしたにしても尚様々の汚物の含有を免れないのであるから、寒中風の吹く時などに凍らした氷には澤山な汚物が入つたり、黴菌が入つたりしてゐることがある、黴菌は總ての場合に於て高度の熱を加へれば直ぐに死んで終ふが、寒いのや冷たいのでは容易に死なないから、零度以下の氷の中に閉されてゐても増殖をしないだけで、本尊は平然と生きてる事が珍しくない。同じ氷でも人造の方よりは有害の場合が多いのである。と云つて人造氷も決して安全な者でない。元來氷は西洋などでは間接の飲料とはするが直接飲料即ち氷其儘を飲むやうな事がない、麥酒やサイダー等を冷藏庫に入れ冷してから飲む、斯うすれば大に衛生的である。麥湯は薄く鹽を入れて冷して飲めば渇を癒すにも好いが、アイスクリームは氷と同樣甚だ不衛生である。氷の爲めに下痢をする例は澤山あるがアイスクリームを食して下痢した者は少いと一般に思ふだらうが、事實はさうでない。アイスクリームは高價なだけに氷程亂暴な飲み方をしないからで、比例から行けば同じ位である、それにアイスクリームの商賣物は動もすると卵の腐敗し掛つた物を構はず入れる事がある

牛乳は普通でも下痢を促す虞れがあるのにアイスクリームにして冷すと尚の事下痢を促し易くなる氷水の中でも氷しる粉、氷あづきなどは最も腐敗し易いものである。海水浴場杯で腹が空いたとか渇を覺えたとか云つて好く氷汁粉や、何かを喰べる人があるが、水泳をして身體の冷えてゐる處へ、又更に内臓へ氷を入れて冷すのだから身體が冷え過ぎて、下痢を起し遂には急性腸胃病に罹る樣な始末になる。（婦人評論）

青蠅の猛毒

由家永喜

蠅には家蠅、青蠅、麻蠅蒼蠅等種々ありて、成蟲のまま冬籠をなし、春先少し暖かになつて來ると活動を始め、不潔な所に集まつて産卵します。而して夏になると澤山集まつて來て、赤痢、窒扶斯、虎列拉、結核何の黴菌でも足に着けて、無遠慮に食物の上に移植して歩きますから直接人を食はないまでも、恐るべき蟲であります。故に差向きこの蠅が食物に附かない樣にせねばなりません。殊に夏向刺身を食べる時に、青蠅と云ふ背中のピカ〳〵光つて居る蠅を近けてはいけません。この青蠅は一種非常な毒を持つて居て、その毒素を排泄した刺身を知らずして、三四歳の子供でも食べやうものなら一時間か一時間半ほど經つて非常に熱を發して苦しむことがあります。俄かの發熱に驚いて醫師を迎へても何のための熱が醫師にも分らず、何か悪いものでも食べたのではないかと調べて見ても、結局原因不明で空騷ぎに終ると云ふことは、夏向き始終見聞する所であります。故に青蠅が止まつたと思つたならば、さう云ふ物は決して食べさせぬ樣にせねばなりません。若し又た之を食つて、その毒のために熱が出た場合は、餘り狼狽せず、徐に頭でも冷して手當をすることが必要です。二三時間もすれば便と共に毒素を排泄して、熱は漸次降下するものである。が兎に角青蠅は注意しなければいけませぬ。（婦人の友）

會費の納入

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等によりたるが以後はなるべく左の口座により拂込相成度し

振替東京二一七〇七二番

東京市神田區美土代町三ノ三
廓清會本部
電話本局四九四〇番

會員の文書

雜誌及會費に關する書信等は便宜上すべて左の處へ宛てられ度し

東京市神田區今川小路一ノ三
伊藤秀吉方
廓清編輯所

大正三年八月十四日納本　一部定價金六錢
大正三年八月十五日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

keepers who besought them to let things stay as they were. The staunch attitude of there two men however and the hearty coop ration of the various young men's associations already organized in eleven places throughout the Prefecture, rendered all the efforts of the license men useless. The work of the young men comes in here for a special word of commendation. Throwing themselves into the fight with all the energy and enthusiasm characteristic of youth, they put on their sandals and tramped the Countryside for the cause. They aranged mass meetings in all the prominent local centres. To the first one they called Shimada Saburo, then a young man and already well known as an eloquent speaker in defence of righteousness. Henceforth he was to become one of their most inspiring helpers. They got up a petition, secured the signatures of 3000 people, and sent it on to the central government. "Haishō" (Abolition of the licensed System) became the common topic of conversation. The politicians took the matter up and made it a party question. In one district the election centred about "Haisho". Thus from morals to politics the movement passed and we are told that when victory was secured in the House, and the act of Abolition passed, politics was largely to the fare. However that may be. the good deed was done. and three years later-1893 the law went into operation.

The struggle was not over however. A new governor "who knew not Joseph" came in and at once took sides with those in favor of restoring the system. His name was Kusakari and his fame seems to rest upon his connection with this matter alone. Behind him were the forces of mammon. It is reported that one brothel keeper in Niigata Prefecture mined himself financially in his efforts to reinstate the evil thing. Men of like ills in Tokyo contributed largely toward the same unrighteous cause. But the young men of the prefecture were alert. Two of them-Matsumiya (now of the Tokyo Language school) and Ishijima, stated the case to Suto of the Local House. He hastened to Tokyo and laid the matter befor Shinagawa-Vice-minister of Home Affairs. Indignant at the governor's conduct and convinced that bribery had been at work. the Vice-minister not only reprimanded Kusakari but gave him that little document known as "Chōkai menkwan" the reception of which means a clased door, henceforth, to political office.

Since then, several attempts have been made to resuscitate the old legal system, but none have succeeded. Whenever then is a suspicion that such a movement is on foot, the christian forces of the prefecture-few in number but great in quality-set themselves like a flint against it, and so far have won out easily. It looks also as if future movements are to meet with a similar fate. It has become clear that "No-license" has not increased the "free" places mere than in other prefectures, and in addition the young boys and girls have been preserved from the influence of the openly-advertized dens.

Thus for twenty-one years Gumma has glorified herself in this social advance. To the general world she is known as the place of high minds and masterful women, but to social reformers she is known as the one prefecture out of all the forty odd in Japan, that will not recognize the legal right of my man or company of men to traffic in the bodies of the young girls whom every ligislature is bound to protect.

May this honor soon be shared by all the other prefectures, and Japan be cleansed from the foul stain upon her good name.

H. Pedley.

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

2 — 822

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. IV August, 1914 No. 8.

CONTENTS.

New Features of the "Taishō" Era.

S. Shimada, M. P.

On the Interview with the Authorities.

M. Masutomi.

Studies in the One Hundred Examples of Harlots.

Colonel Yamamuro.

A New Meaning of Home.

Prof. I. Abe.

On Married Life.

H. Hatoyama.

Catch the Fundamental Idea of Thing.

S. Fukui.

Free Abolition of Prostitution and Two Police Stations.

An Editor.

Review of Reviews.

Gumma and No-license.
A Banner Prefecture.

Thirty-five years ago, a movement was started for the regulation of the social evil in Gumma Prefecture. Four years later-1883, the licensing system was abolished in the famous summer resort of Ikao, so that one of its leading citizens is fond of enlightening his friends with the statement "Gunma Prefecture is only ten years behind my own town in the matter of social reform"!

The example of Ikao led to the movement which finally resulted in the clearing out of all licensed houses in the whole Prefecture, and behind this movement stands first and foremost the influence of Joseph Neesima in his home town of Annaka and its immediate neighborhood. Only two miles away is the little town of Haraichi and there the agitation began in the person of Mashimo(Kajūrō). who had been giving serious attention to the influence of the "open" system upon the minds of the growing youth. Fortunately at that time the speaker of the local assembly was his neighbor Yuwasa (Jiro) of Annaka, and to the latter he went often for consultation. When the House was in session the two stayed at the some hotel in Maebashi and were constantly besieged by brothel

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY